

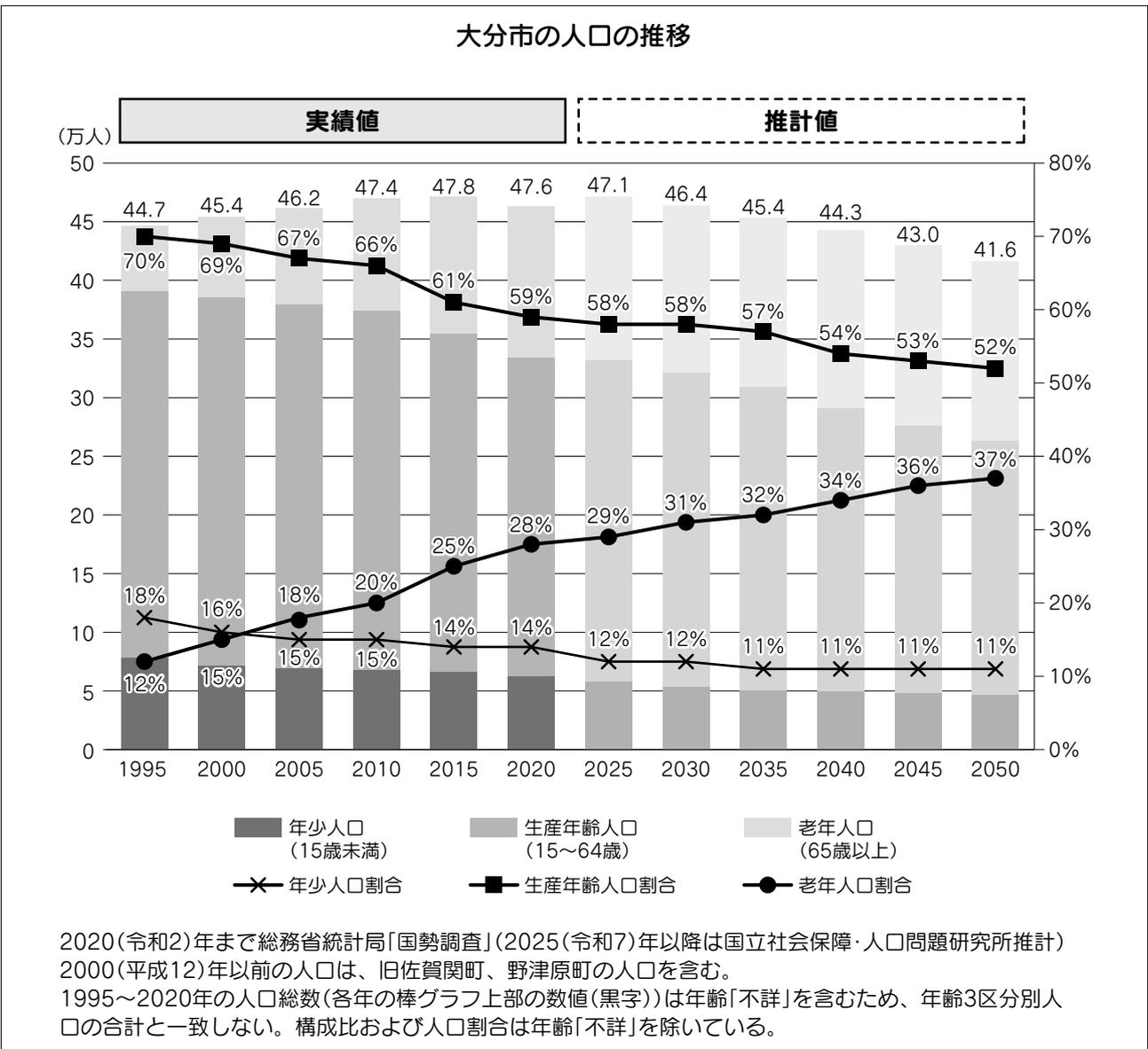
## 第2章 大分市の現状と課題

### 1 大分市の健康状況

前計画期間中の2020(令和2)年以降は、新型コロナウイルス感染症の流行により、生活様式の変化や外出自粛による運動不足等の生活習慣の乱れ、ストレスの蓄積が市民の健康や社会生活へ影響を及ぼしたと考えられます。

#### (1) 人口の推移

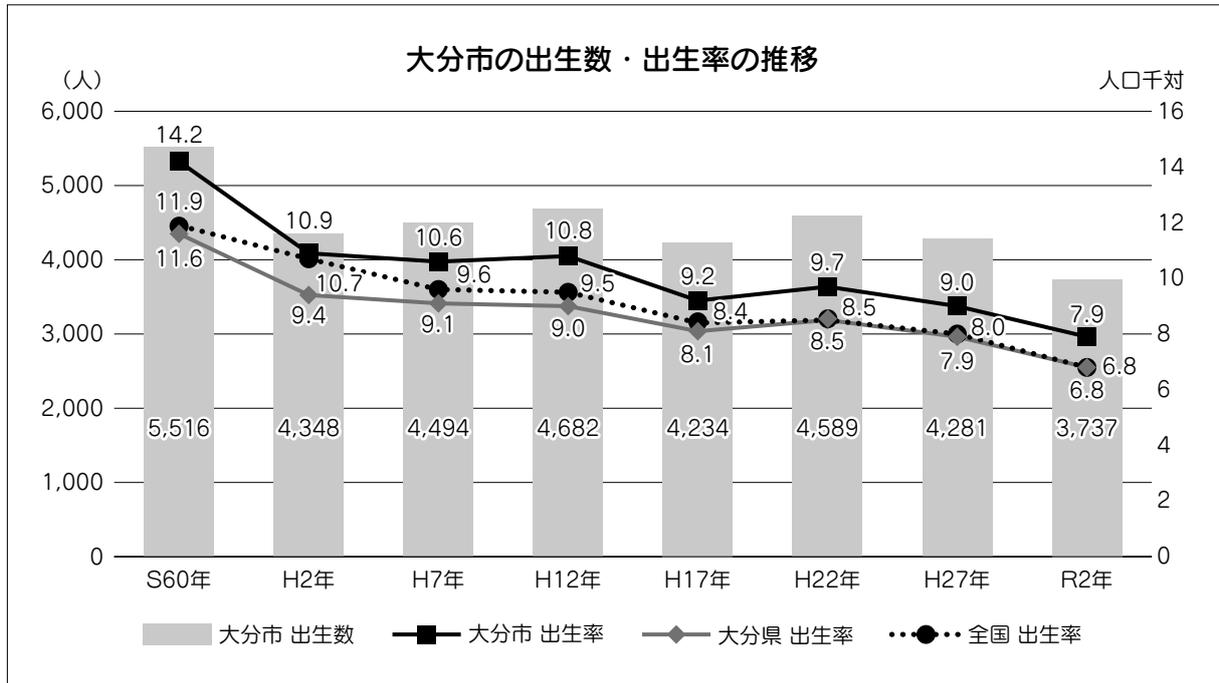
本市の総人口は、今後減少することが予測されています。生産年齢人口と年少人口が減少する予測である一方、老年人口は増加傾向であり、老年人口割合(高齢化率)を見ると2050(令和32)年には37%に達する見込みです。



## (2) 出生と死亡の状況

### ① 出生数・出生率の推移

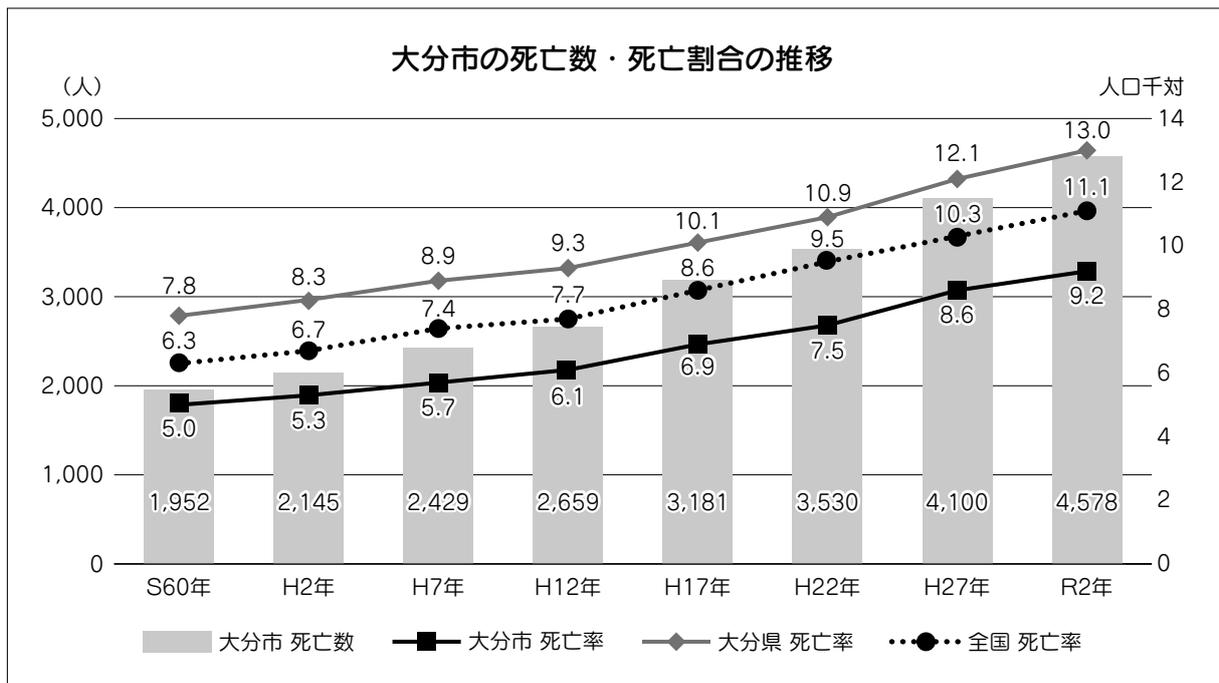
本市の出生数は、平成に入り4,500人前後で推移していましたが、令和に入り4,000人を割り、2020(令和2)年には3,737人、出生率7.9となっています。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

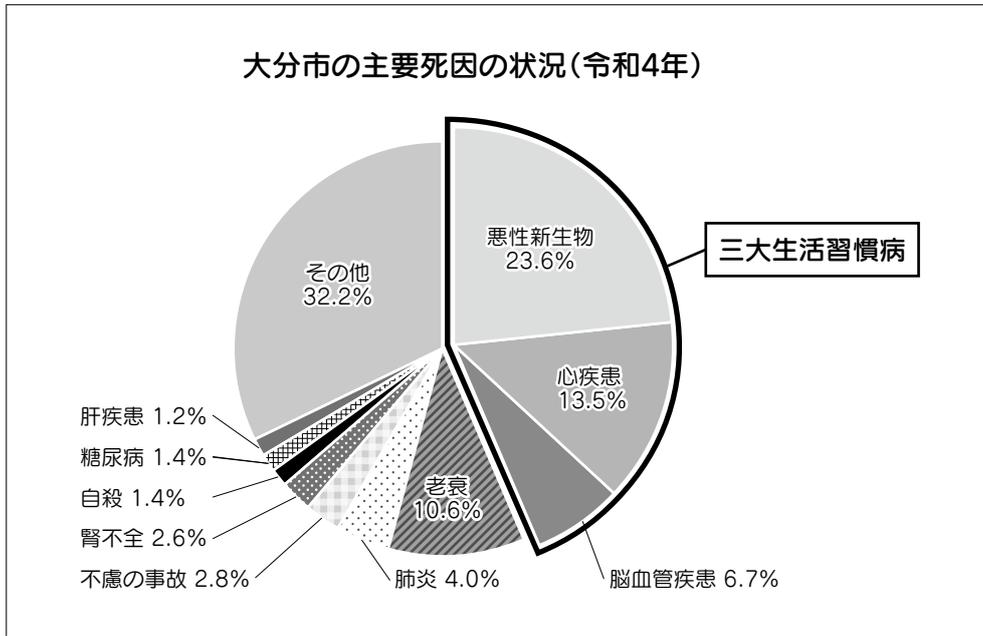
### ② 死亡数・死亡割合の推移

本市の死亡割合は、全国・大分県と比較すると低い状況ですが、1985(昭和60)年以降、年々増加しています。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

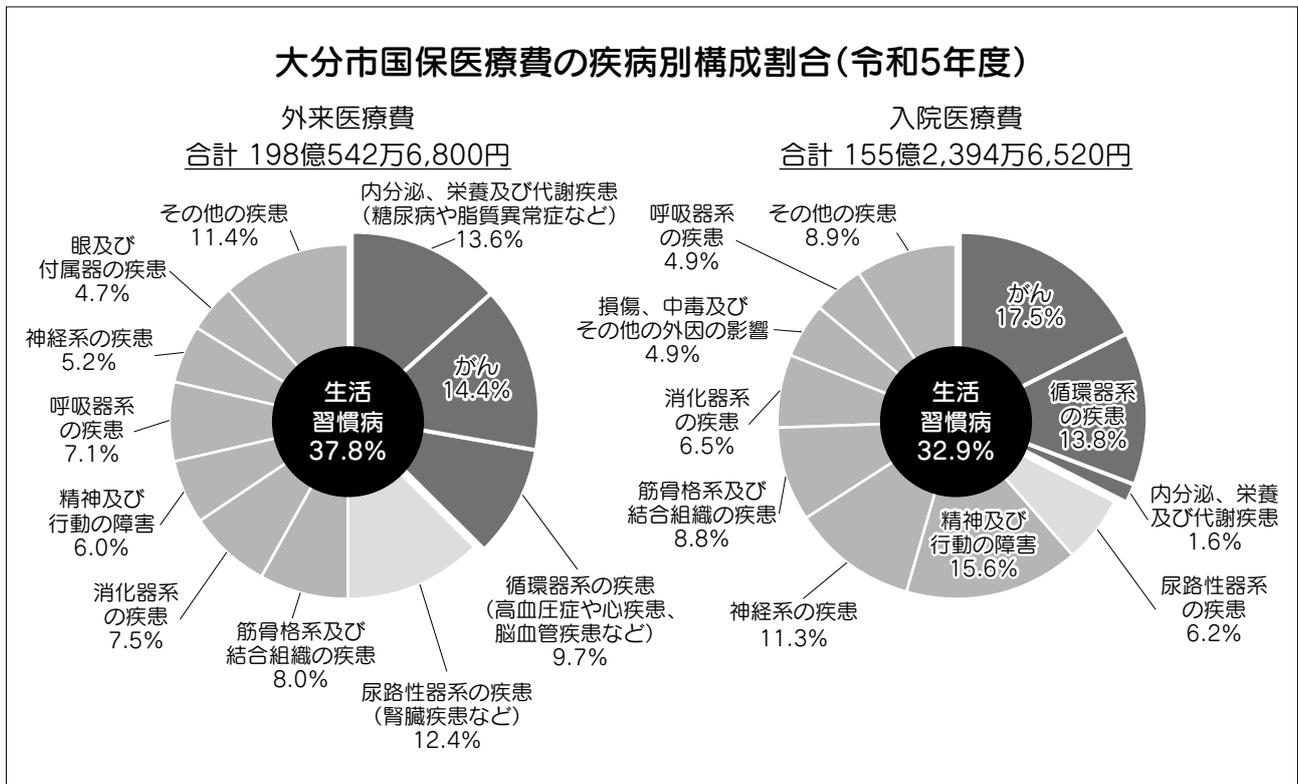
2022(令和4)年の主要な死因の状況を見ると、悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患の順に割合が高く、三大生活習慣病(悪性新生物・心疾患・脳血管疾患)の死因割合は全体の43.8%を占めています。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

### (3) 医療費の状況(国民健康保険)

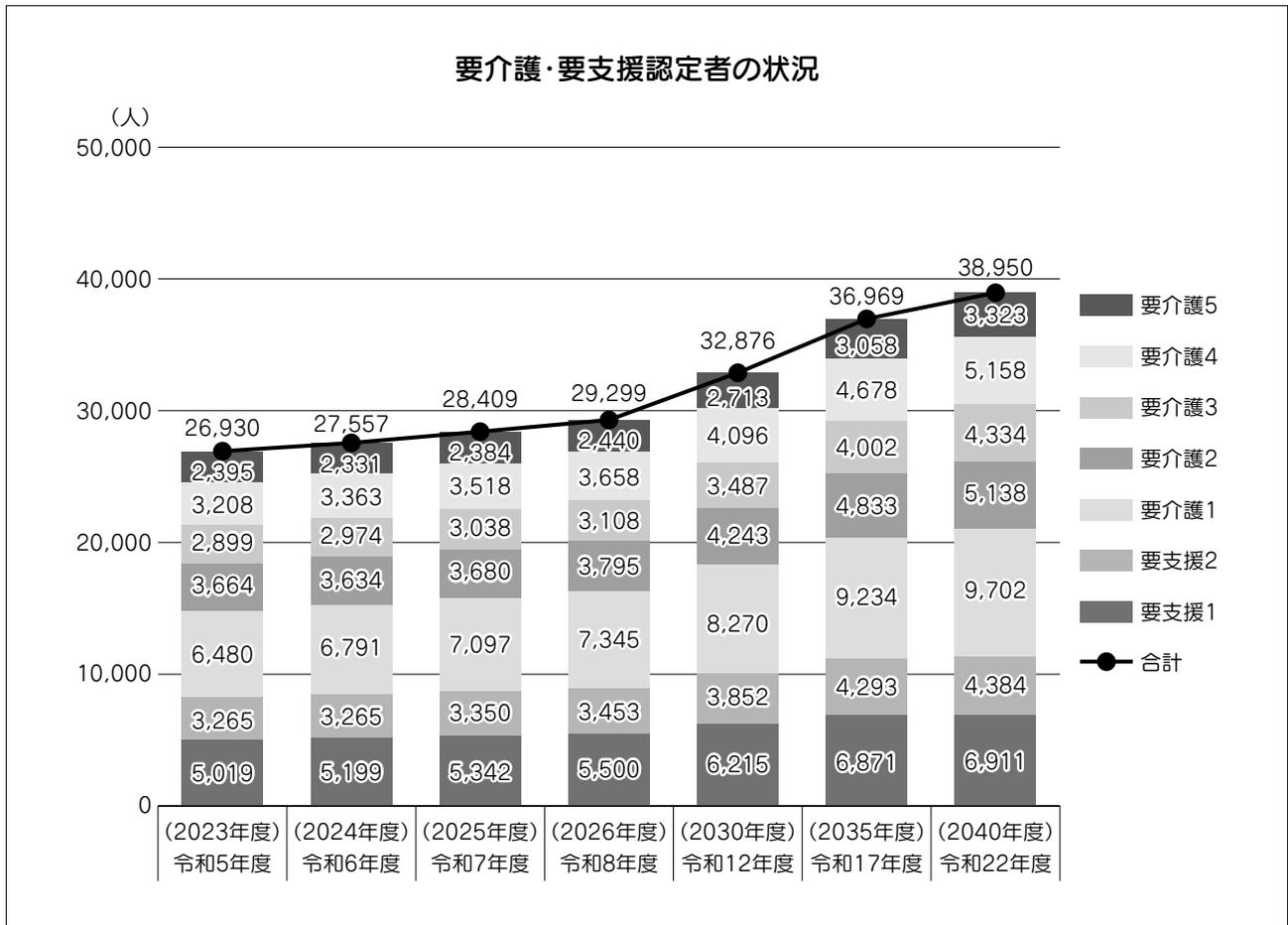
2023(令和5)年度の大分市国民健康保険における外来・入院の疾病別医療費の内訳を見ると、生活習慣病が占める割合は外来で約4割、入院で約3割となっています。



出典：国保データベースシステム：医療費分析(2)大、中、細小分類R5累計を再編

#### (4) 介護の状況

本市の要介護・要支援認定者数は、2023(令和5)年9月末現在26,930人となっています。  
今後も増加が続き、2040(令和22)年度には38,950人になると推計されています。



出典：大分市高齢者福祉計画及び第9期大分市介護保険事業計画

介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」、「関節の病気」であり、加齢に伴う運動機能や筋力の低下と関連しています。

男女別に見ると、男性では生活習慣病、女性では運動機能と筋力の低下に関連した病気が多くなっています。

#### 介護・介助が必要になった主な原因

	1位	2位	3位
全体	高齢による衰弱 17.6%	骨折・転倒 15.2%	関節の病気 11.2%
男性	高齢による衰弱 19.7%	糖尿病 13.0%	心臓病 12.5%
女性	骨折・転倒 17.6%	高齢による衰弱 16.4%	関節の病気 12.2%

(参考) 令和4年度大分市在宅介護実態調査

出典：大分市高齢者福祉計画及び第9期大分市介護保険事業計画

## 2 第2期いきいき健康大分市民21の評価と課題

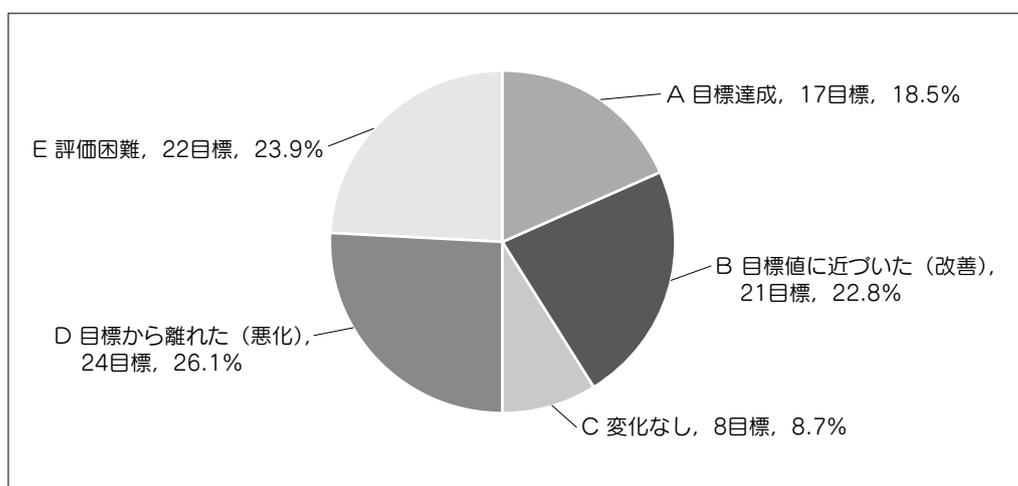
### (1) 評価結果

#### ① 評価方法

第2期いきいき健康大分市民21の67項目(92目標値)の目標達成状況について、ABCDEの5段階で評価しました。ただし、数値目標を設定していない項目については、BCDEの4段階の評価としました。

	評価区分	判断基準
A	目標達成	目標値以上
B	目標値に近づいた(改善)	ベースライン値から現状値までの数値の変化割合(増減率)が、指標の方向に対して+5%超
C	変化なし	増減率が指標に対して±5%以内
D	目標から離れた(悪化)	増減率が指標の方向に対して-5%超
E	評価困難	増減率の比較ができない等により評価が困難

#### ② 評価結果



#### 分野別の達成状況

評価	健康寿命の延伸と健康格差の縮小	主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底		社会生活を営むために必要な機能の維持・向上			健康を支え、守るための社会環境の整備	栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙・COPD及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善					
	健康寿命	がん	循環器疾患・糖尿病・CKD(慢性腎臓病)	こころの健康	次世代の健康	高齢者の健康	社会環境の整備	栄養・食生活	身体活動・運動	休養	飲酒	喫煙・COPD	歯・口腔の健康
A	2		6	1				1		1	1	1	4
B		1	4	1	1	3	1	1			1	6	2
C			2		1			2			1	2	
D					2	2	1	4	10		1	1	3
E		8	3	2	2	3		1			1	1	1
合計	2	9	15	4	6	8	2	9	10	1	5	11	10

第2期いきいき健康大分市民21 目標の達成状況《一部抜粋》

基本指針 評価区分	健康寿命の延伸と 健康格差の縮小	主要な生活習慣病の発症予防と 重症化予防の徹底	社会生活を営むために必要な 機能の維持・向上	健康を支え、守るための 社会環境の整備	栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、 喫煙・CDPD及び歯・口腔の健康に関する 生活習慣及び社会環境の改善
A 目標達成	<p>日常生活に制限のない期間の平均 (男性・女性)</p>	<p>LDLコレステロール 160mg/dl以上の人の割合の減少 (男性・女性)</p> <p>血糖コントロール不良者の割合の減少</p>	<p>ストレスや悩みを相談したいと思ったときには相談できる人の割合の増加</p>		<p>40～60歳代女性の肥満者の割合</p> <p>歯や口の中の悩みについて悩みや症状のない人の割合の増加</p> <p>60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加</p>
B 目標値に近づいた (改善)		<p>75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少</p> <p>特定保健指導の実施率の向上</p>	<p>自殺者の減少</p> <p>腰痛や手足の関節の痛みがある高齢者(65歳以上)の割合の減少 (男性)</p>	<p>健康や医療サービスに 関係したボランティア活動をしている人の増加</p>	<p>職場や家庭で分煙を実行している人の割合の増加 (職場家庭両方)</p>
C 変化なし		<p>高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下)(女性)</p> <p>特定健康診査の実施率の向上</p>	<p>朝食を必ず食べることも の割合の増加 (小学5年生)</p>		<p>20～60歳代男性の肥満者の割合</p> <p>生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合の減少(女性)</p>
D 目標から離れた (悪化)			<p>肥満傾向にある子どもの割合の減少 (小学5年生)</p> <p>低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者割合の維持</p>	<p>自分と地域の人たちとのつながりが強い方だと思える人の割合の増加</p>	<p>20歳代女性のやせの人の割合</p> <p>野菜の入った料理を1日平均5皿以上食べる人の割合の増加</p> <p>運動習慣者の割合の増加</p>

## (2) 各分野における評価と課題

### ① 健康寿命の延伸と健康格差の縮小

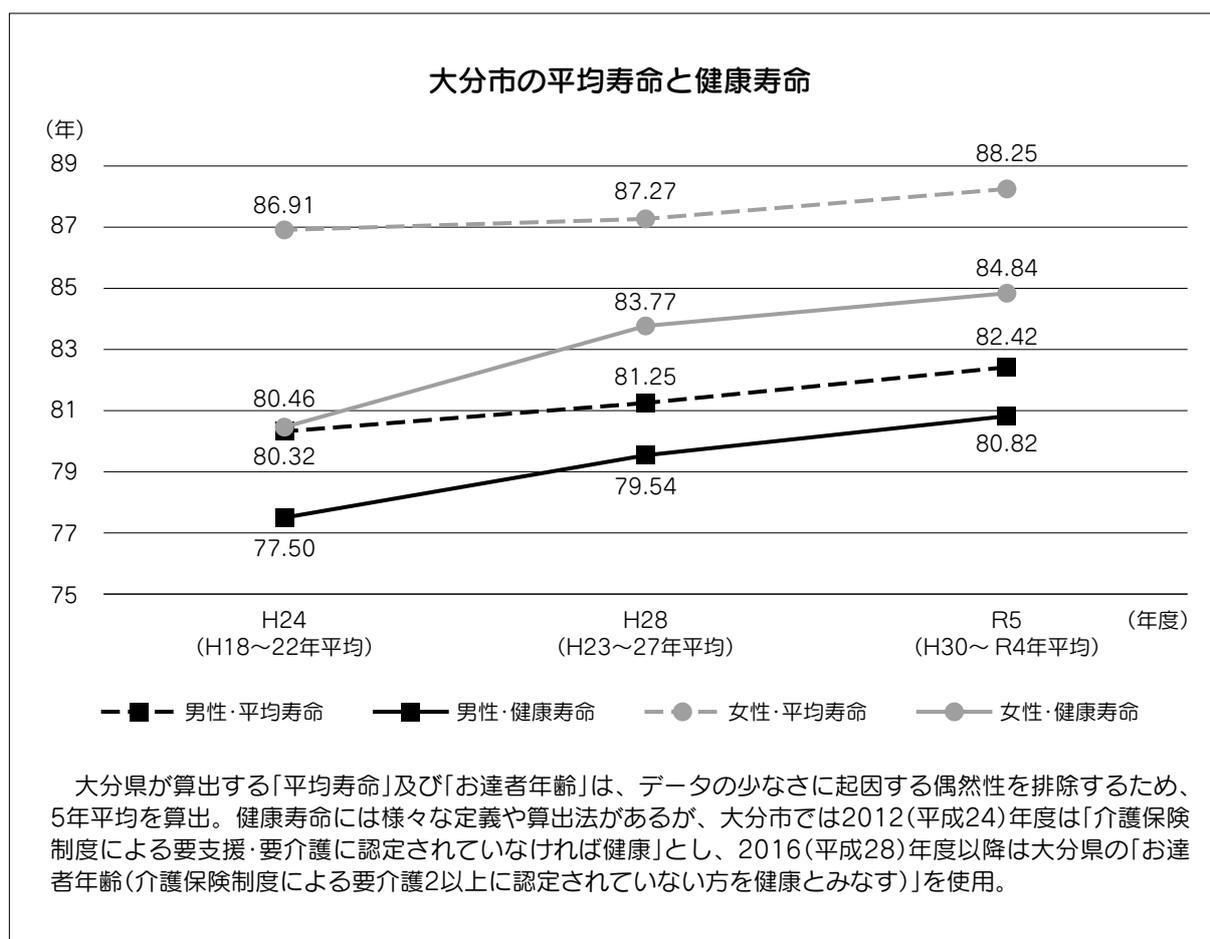
#### 【評価と課題】

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。生活習慣の改善や、生活習慣病の発症予防・重症化予防、社会環境の整備等により健康寿命の延伸を実現することは、健康づくりを推進するにあたり、重要な課題です。

今後も平均寿命の延伸が予測されていますが、平均寿命と健康寿命の差を縮小することで、個人の生活の質の低下を防ぐとともに、医療費や介護給付費等社会保障負担の軽減も期待でき、すべての市民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現に寄与するものと考えられます。また、健康格差の縮小に向けて、誰一人取り残さない健康づくりを展開することも重要です。

2012(平成24)年度から2023(令和5)年度まで、平均寿命は、男性が1.96年、女性が1.34年延伸、健康寿命は、男性が3.32年、女性が4.52年延伸しており、男女とも平均寿命の増加分を健康寿命の増加分が上回っており、目標を達成しています。

今後も引き続き、健康寿命の更なる延伸を図っていくことが重要です。



出典：大分県健康指標計算システム

## ② 主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

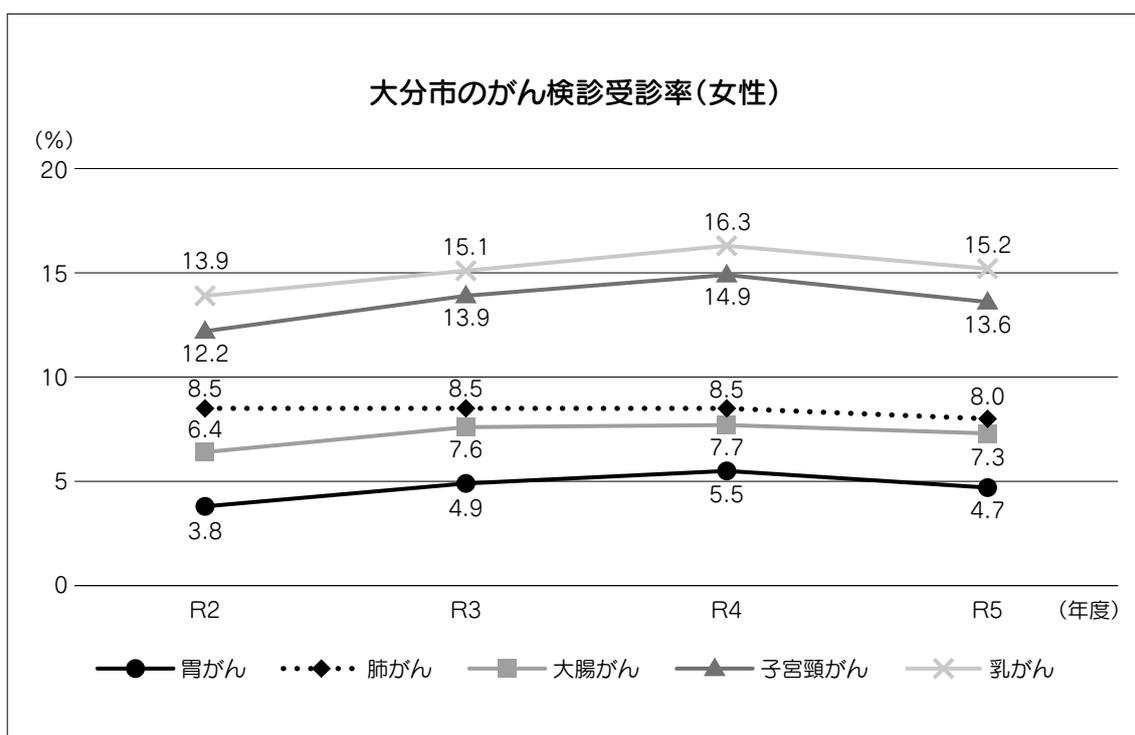
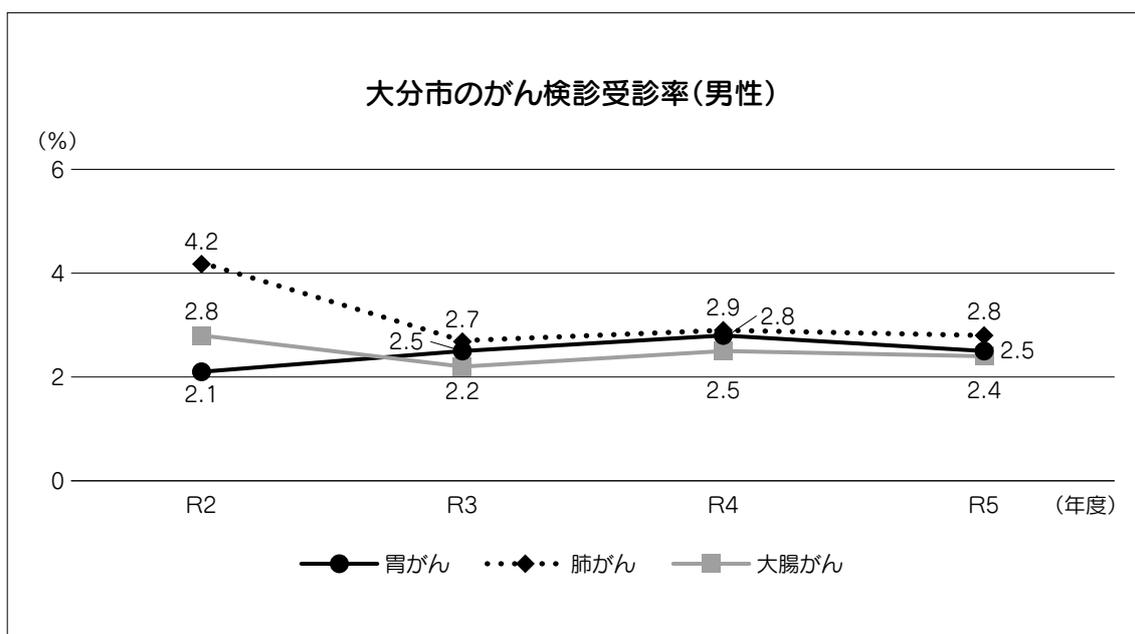
### (ア) がん

#### 【評価と課題】

がんは主要な死因であることから、生活習慣の改善等によるがんの予防や早期発見・早期治療により、死亡率を減少させることが重要です。

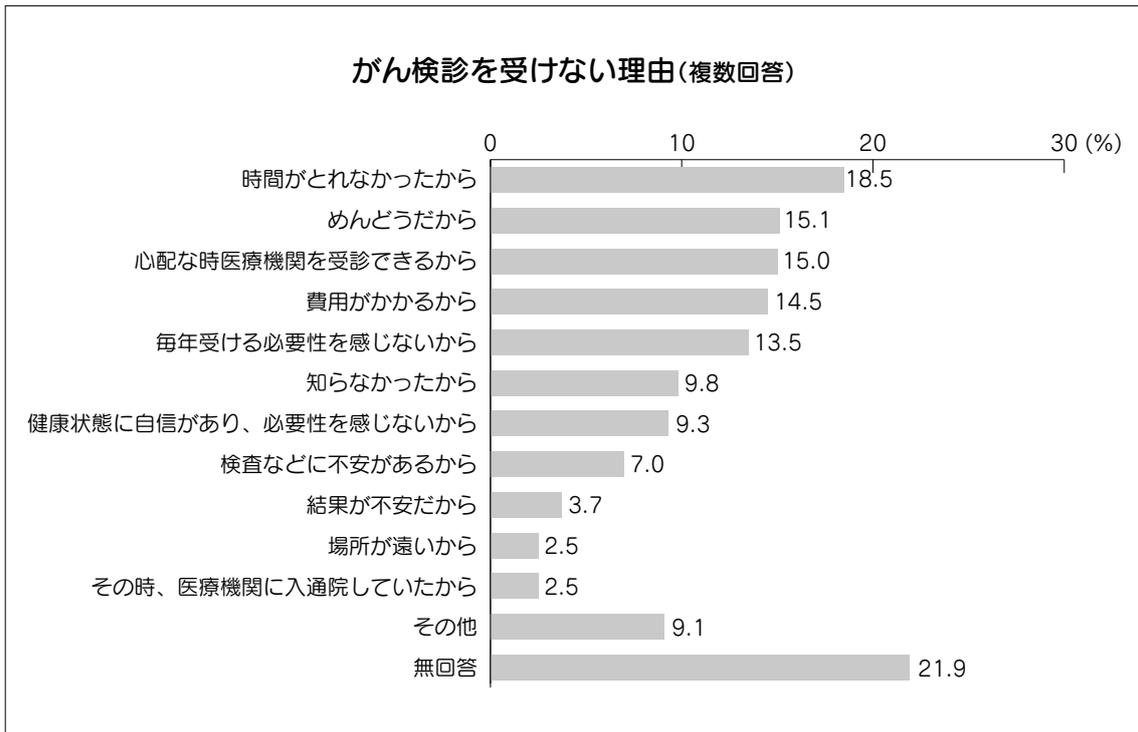
75歳未満のがんの年齢調整死亡率(10万人当たり)は、2010(平成22)年の73.0から2022(令和4)年は58.1へ減少しており、改善傾向にあります。

がん検診受診率は、すべてのがん検診で女性より男性の方が低く、推移を見ると、2023(令和5)年度では2022(令和4)年度より男女ともに低くなっている状況です。



出典：地域保健・健康増進事業報告

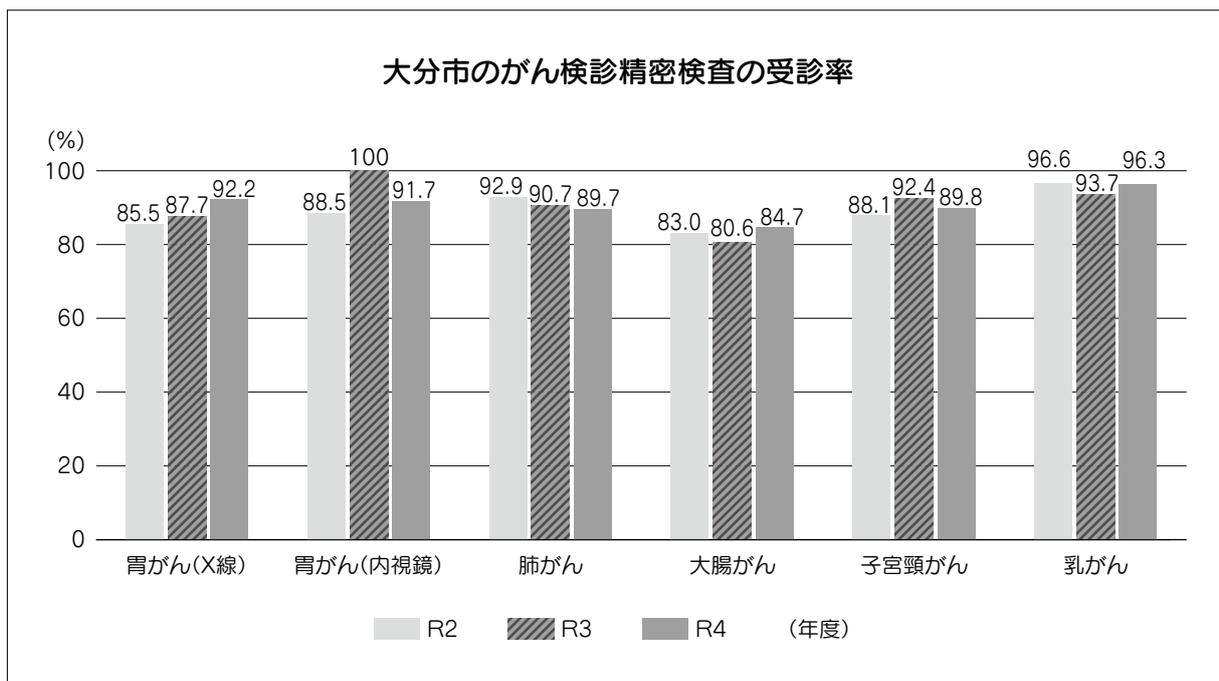
がん検診を受けない理由は、「時間がとれなかったから」が最も多く、次いで「めんどうだから」、「心配な時医療機関を受診できるから」の順となっています。



出典：令和5年度 「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

がん検診を受診した結果、「要精密検査」となった人の精密検査受診率は、すべてのがん検診において80%以上で推移しているものの、2022(令和4)年度を見ると、肺がん、大腸がん、子宮頸がんは、国の目標値である90%に到達していません。

今後も引き続き、定期的ながん検診の受診と確実な精密検査の受診につなげる取組が重要です。



出典：地域保健・健康増進事業報告

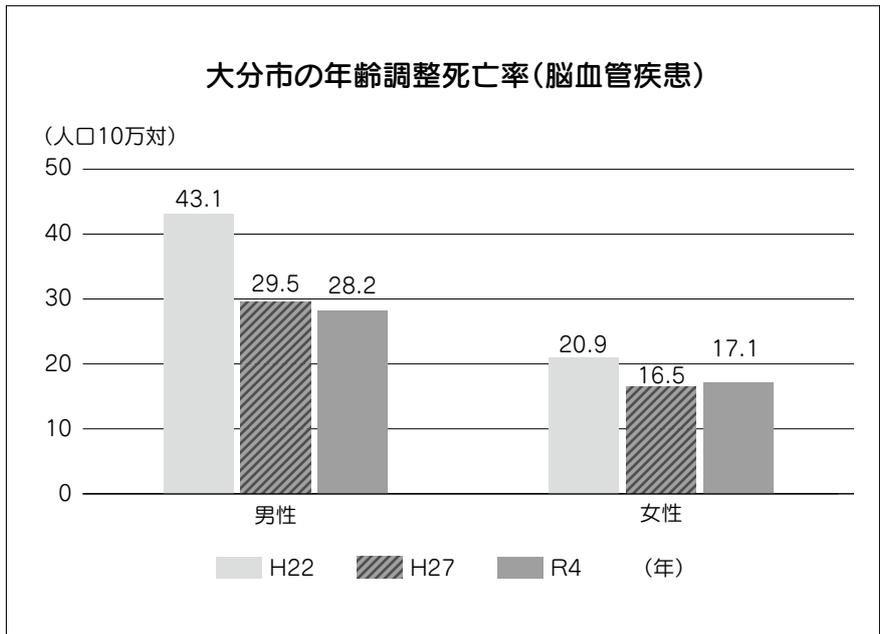
(イ) 循環器病・糖尿病・CKD(慢性腎臓病)

【評価と課題】

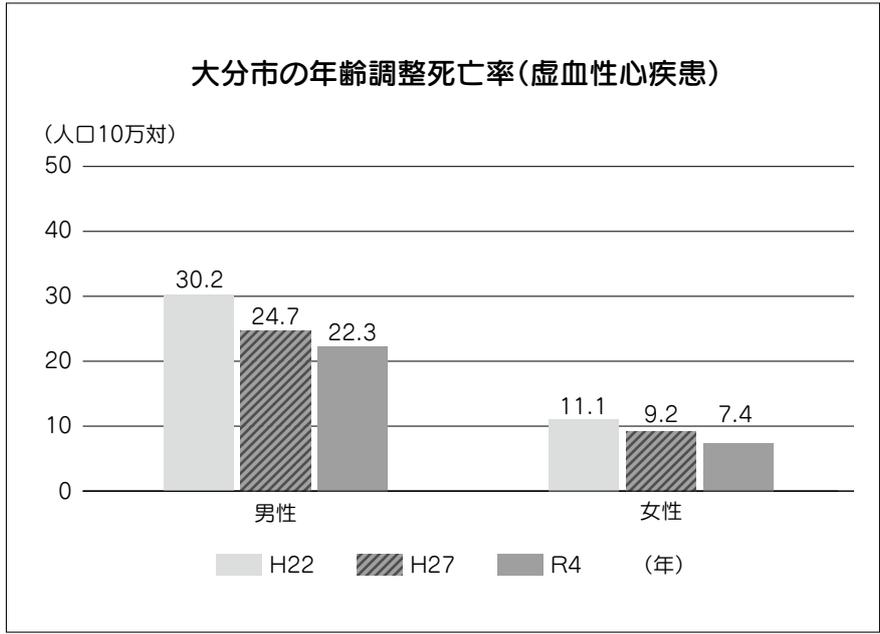
脳卒中・心臓病等の循環器病は、がんと並んで主要な死因であるとともに、介護が必要となる主な原因の一つでもあることから、循環器病を予防することは重要です。

脳血管疾患の2022(令和4)年の年齢調整死亡率を見ると、男性28.2、女性17.1と2010(平成22)年より減少しています。虚血性心疾患の年齢調整死亡率も同様の傾向で、男性22.3、女性7.4と改善傾向にあります。

循環器病の危険因子とされる高血圧症、脂質異常症、糖尿病に関する目標項目の達成状況は、改善傾向にありますが、メタボリックシンドロームの該当者の割合は増加している現状です。



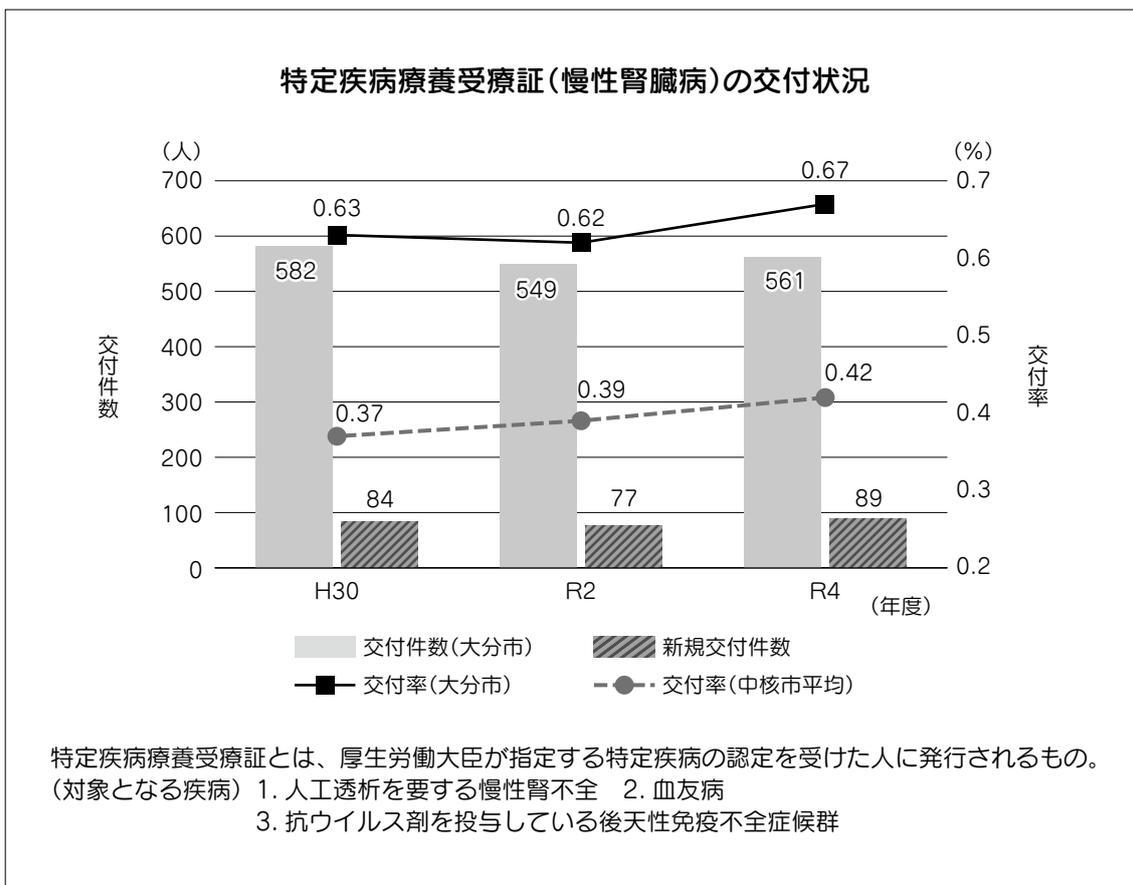
出典:厚生労働省「人口動態統計」



出典:厚生労働省「人口動態統計」

本市の新規人工透析患者数は、中核市の中で依然高い水準で推移していることから、CKDの発症に起因する循環器病および糖尿病の発症・重症化を予防することが重要であり、健診の受診率向上と健診結果に基づいた保健指導の取組を進めることが必要です。

生活習慣の改善等により多くが予防可能である循環器病、糖尿病、CKD等に関する取組は、生活習慣病対策として重要です。ライフステージに応じた対策を進める上で青壮年期からの取組が課題となっていることから、地域と職域が連携・協働し、働き盛り世代の健康づくり支援を進めることが必要です。



出典：大分市特定疾病療養受療証より集計

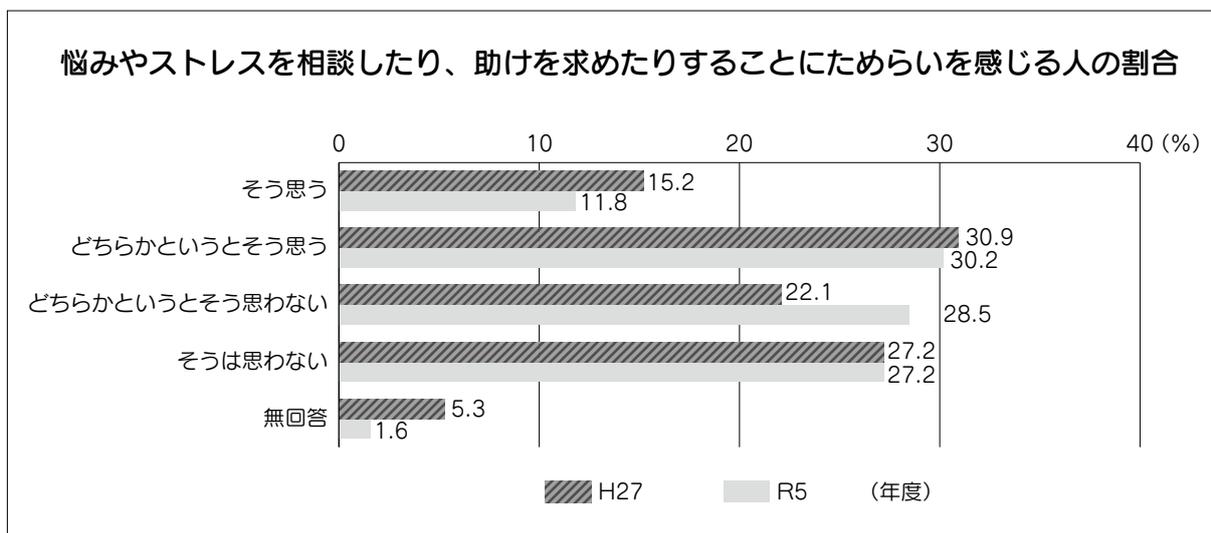
### ③ 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上

#### (ア) こころの健康

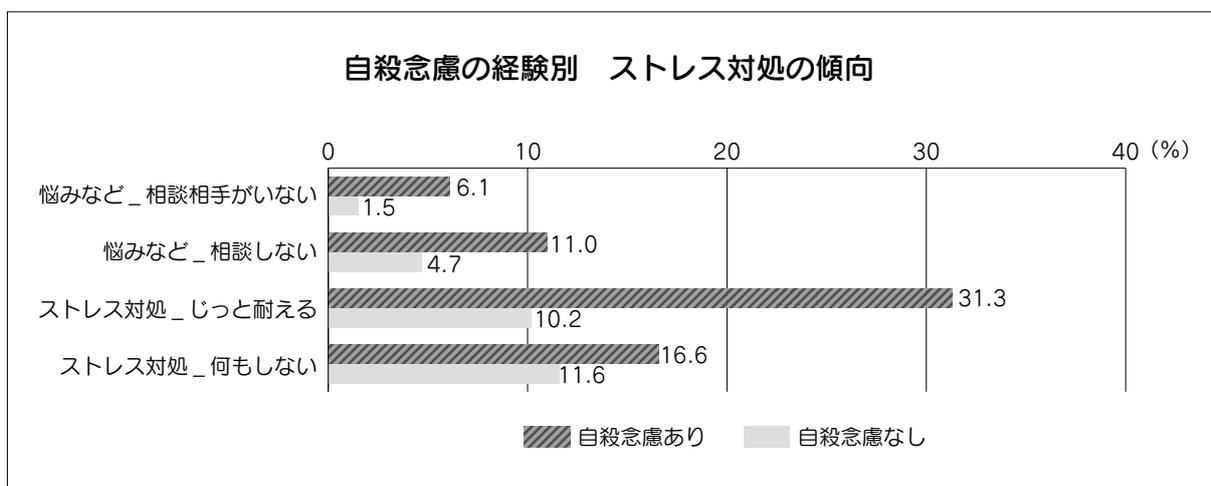
##### 【評価と課題】

ストレス対処行動をとる人や悩んだときに誰かに相談することができる人の割合は、2012(平成24)年度の70.3%から2023(令和5)年度は97.2%に増加しています。一方で、悩みを抱えたときやストレスを感じたときに、誰かに相談することや助けを求めたりすることにためらいを感じるという人は4割を超えています。その理由は、「どこに、誰に相談したらよいかわからない」が6割でした。また、本気で自殺したいと考えたこと(自殺念慮)がある人は、悩みやストレスを抱えたときに「じっと耐える」、「相談したり助けを求めたりすることにためらいを感じる」傾向であることから、気軽に相談できる体制の整備と周知が必要です。

心の健康の不調は誰にでも起こり得るため、家族や友人、地域の人等身近な人が最初の相談者になることができるよう、心の健康に関する理解者を増やすとともに、自身が困ったときは身近な人にSOSを出してよいということを広く周知していくことが重要です。



出典：平成27年度・令和5年度こころの健康についての大分市民意識調査



出典：令和5年度こころの健康についての大分市民意識調査

(イ) 次世代の健康

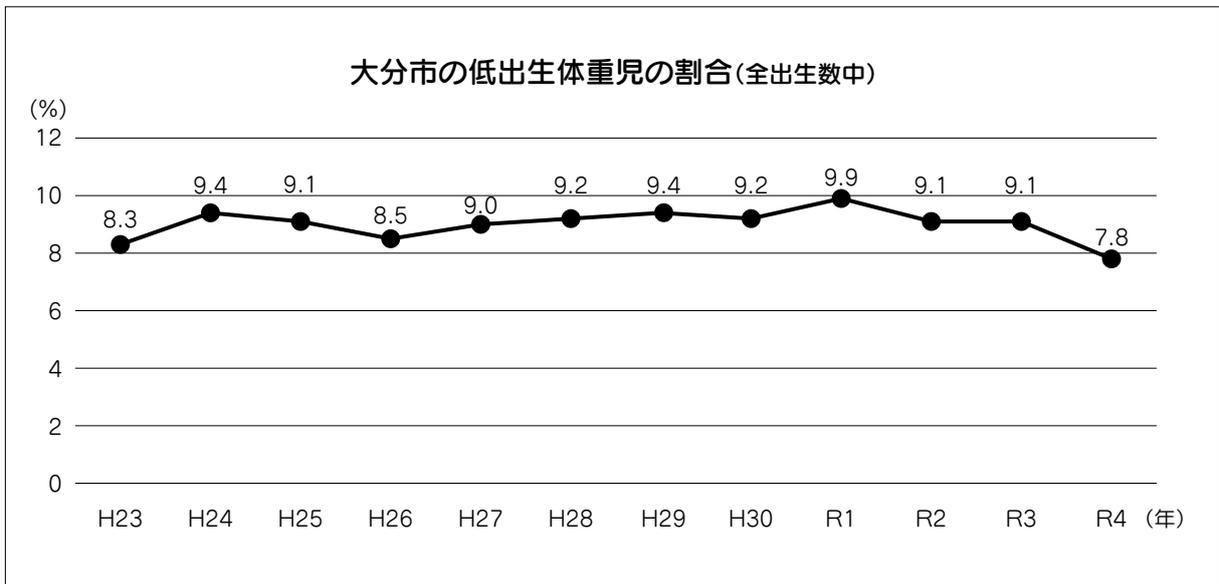
【評価と課題】

生涯にわたって心身ともに健康であるためには、こどもの頃から健康的な生活習慣を身につけ、生活習慣病予防の基盤をつくるのが重要です。また、妊娠中はもとより、妊娠前からの心身の健康づくりも、こどもの出生後の健康状態において非常に重要です。

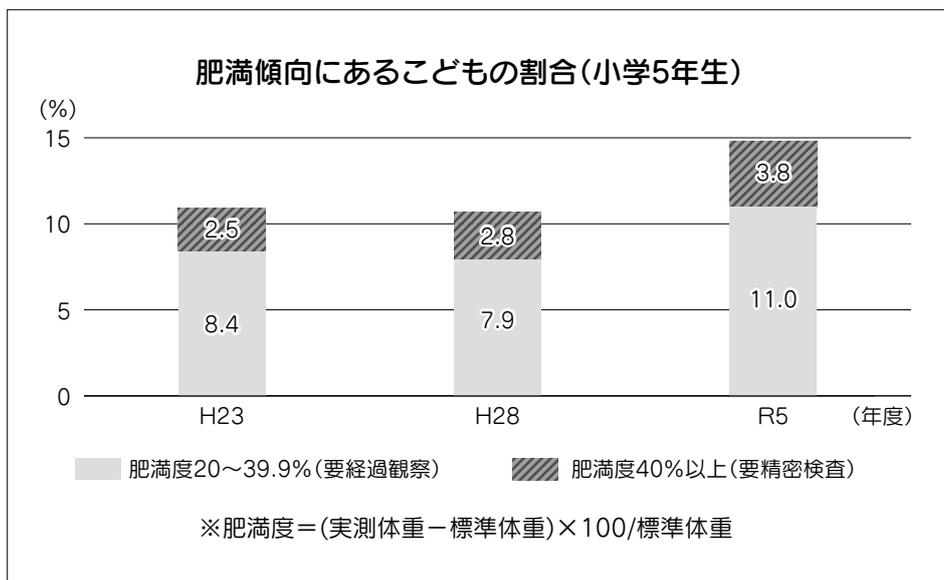
全出生数中の低出生体重児の割合を見ると、2011(平成23)年は8.3%、2022(令和4)年は7.8%と減少しています。

肥満傾向にあるこどもの割合は、2023(令和5)年度は肥満度20～39.9%(要経過観察)が11.0%、肥満度40%以上(要精密検査)が3.8%であり、2011(平成23)年度と比べて増加しています。

今後も妊娠前からの健康増進を図るとともに、こどもの健康を支える生活習慣の確立に向けた取組を進めるのが重要です。



出典：厚生労働省「人口動態統計」



出典：大分市立学校すこやか検診

## (ウ) 高齢者の健康

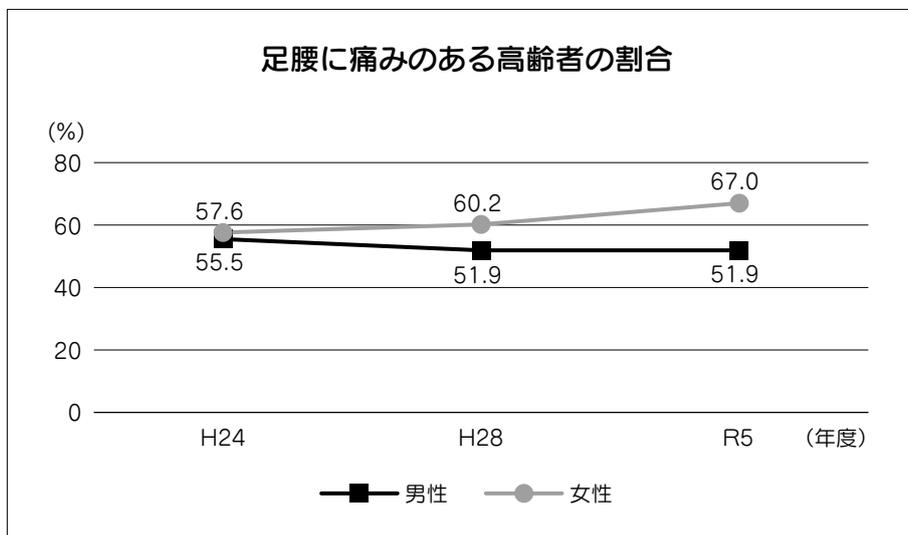
### 【評価と課題】

75歳以上の後期高齢者人口が急増し、要介護者の大幅な増加も見込まれる中、加齢や疾病による運動機能の低下等から、将来の介護のリスクへとつながるロコモティブシンドローム(運動器症候群)を予防することが重要となっています。

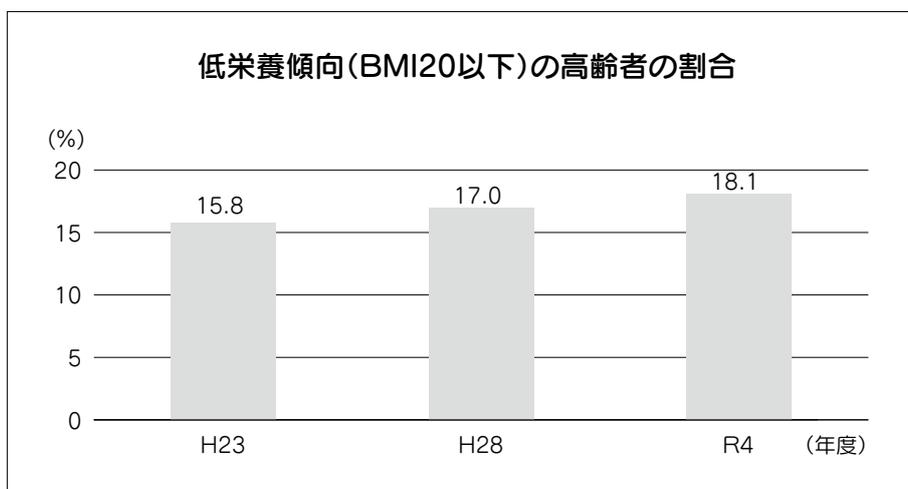
その要因にもなり得る足腰に痛みのある高齢者(65歳以上)の割合を見ると、女性は67.0%と2012(平成24)年度より増加しています。若い頃からの運動習慣の重要性を伝えることや、地域の教室等への社会参加を促し、運動機能の維持向上を図ることが重要です。

また、BMI20以下の低栄養傾向の高齢者の割合を見ると、18.1%と2011(平成23)年度より増加している状況です。

高齢期のやせは、肥満よりも死亡のリスクが高いことも踏まえ、低栄養傾向の高齢者の減少を目指すことが重要です。



出典:平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典:特定健康診査(大分市国保分)

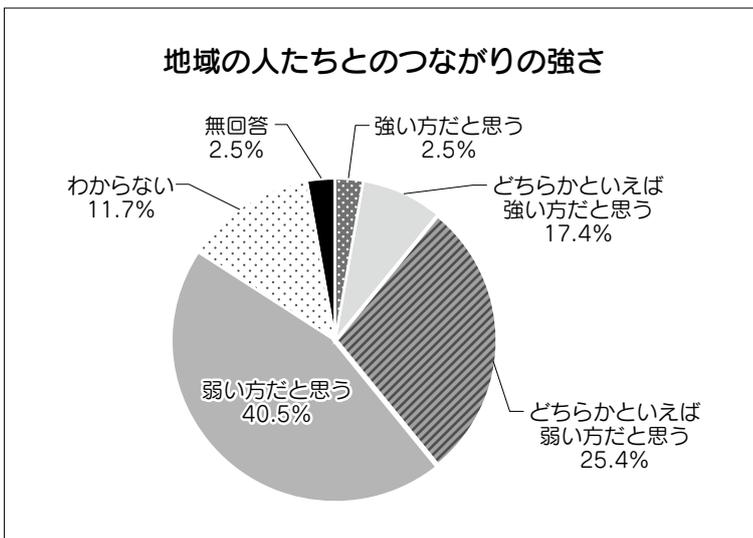
#### ④ 健康を支え、守るための社会環境の整備

##### 【評価と課題】

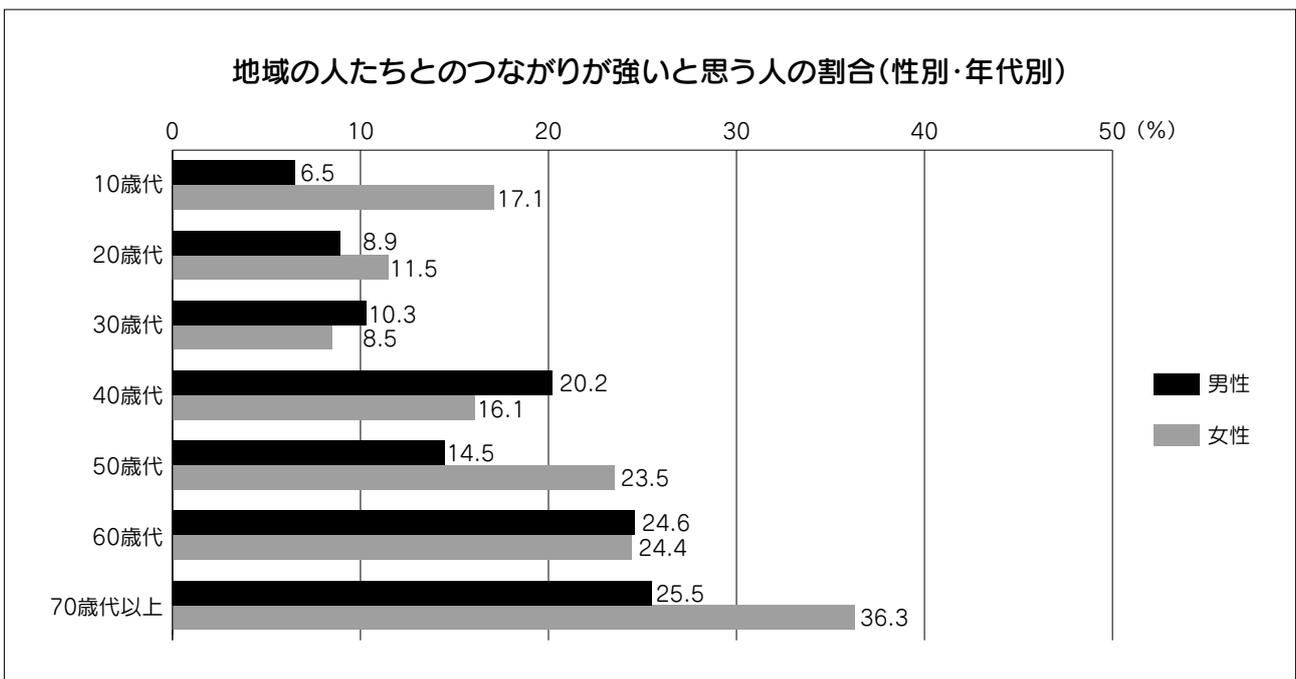
社会的なつながりを持つことは、心身の健康、生活習慣、死亡リスクの低減等により影響があることが分かっています。また、地域とのつながりが豊かな人は、様々な交流の機会や社会活動に参加する等のきっかけがあることから、健康状態がよいとされています。

健康や医療サービスに関係したボランティア活動をしている人の割合は、2012(平成24)年度の12.1%から2023(令和5)年度は15.9%と増加していますが、自分と地域の人たちとのつながりが強いと思う人の割合は、2012(平成24)年度の21.5%から減少しています。

人々の健康は社会経済的環境の影響を受けることから、市民一人ひとりが健康に関心を持ち、健康づくりに取り組める施策を展開するとともに、健康づくりを支援していくための社会環境の整備を進める必要があります。



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査（大分市）



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査（大分市）

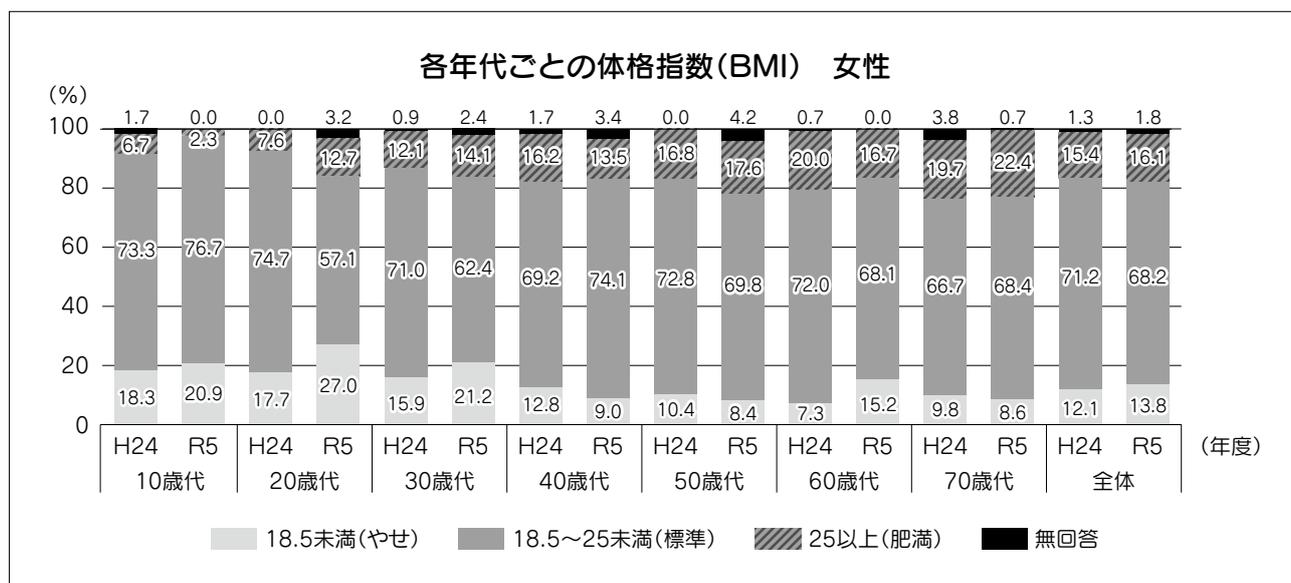
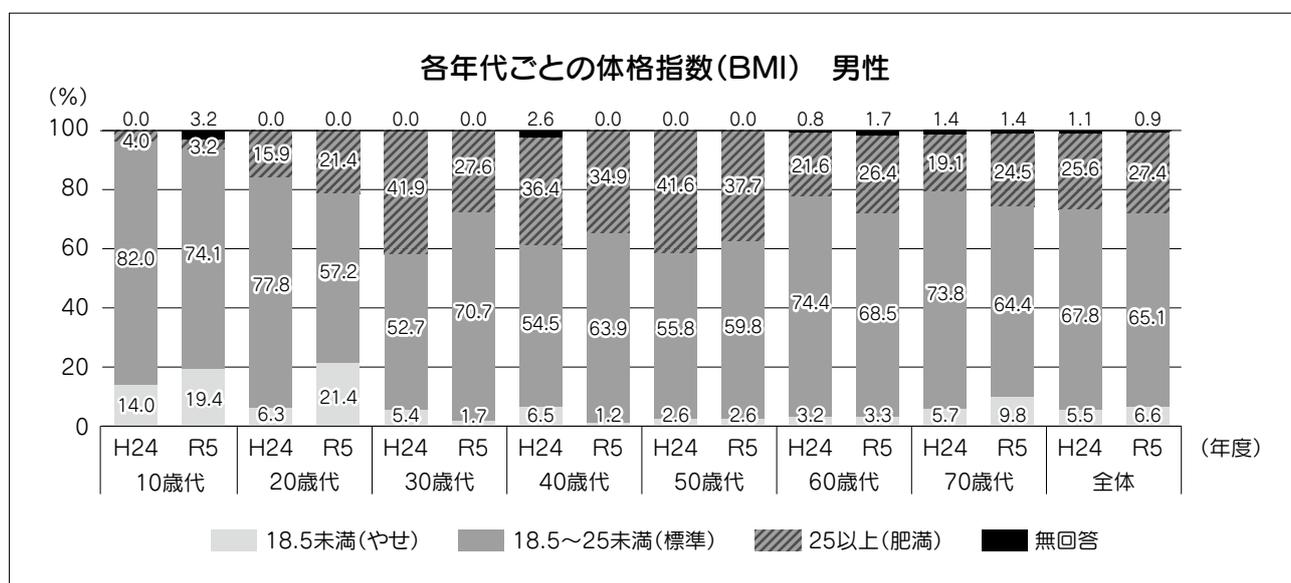
⑤ 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙・COPD(慢性閉塞性肺疾患)及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

(ア) 栄養・食生活

【評価と課題】

栄養・食生活は、生命の維持に加え、こどもが健やかに成長し、人々が健康で幸福な生活を送るために欠くことのできない営みであり、多くの生活習慣病の発症・重症化予防のほか、生活機能の維持・向上の観点からも重要です。

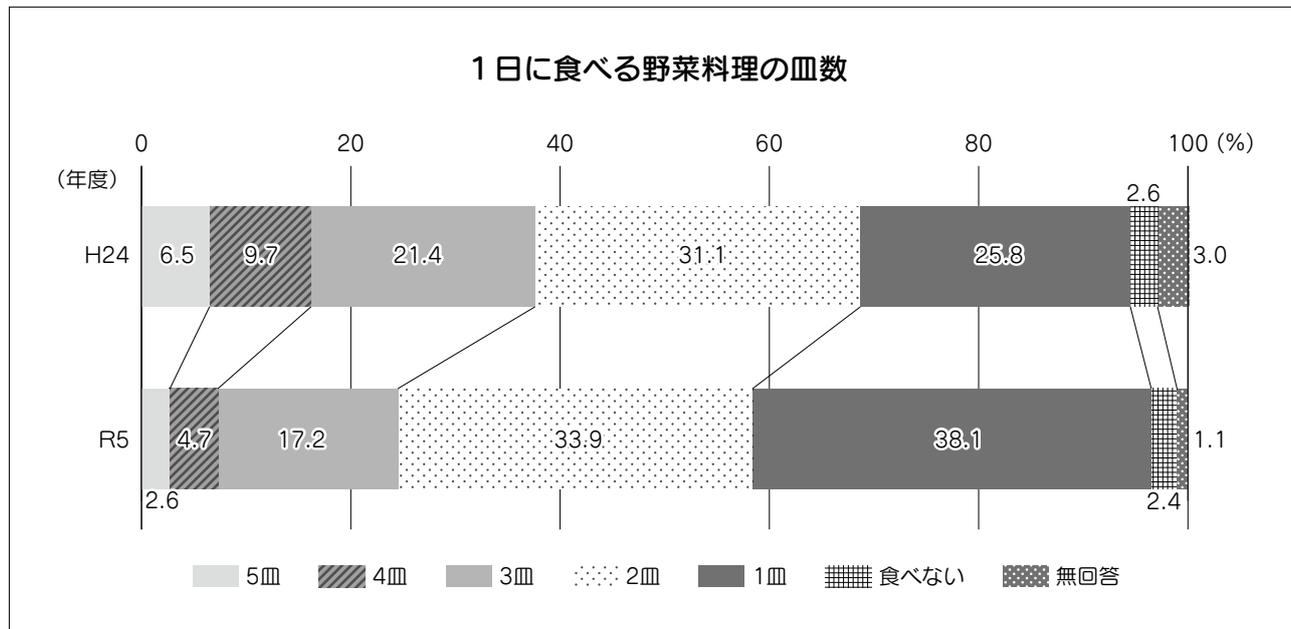
20～60歳代男性の肥満者の割合は29.9%で2012(平成24)年度とほぼ変化がありません。40～60歳代女性の肥満者の割合は16.2%で目標値を達成していましたが、20歳代女性のやせの割合は27.0%で2012(平成24)年度と比較すると増加しています。肥満は循環器病や生活習慣病等との関連があり、若年女性のやせは骨量減少、低出生体重児出産のリスク等との関連があることから、今後も引き続き取組が必要です。



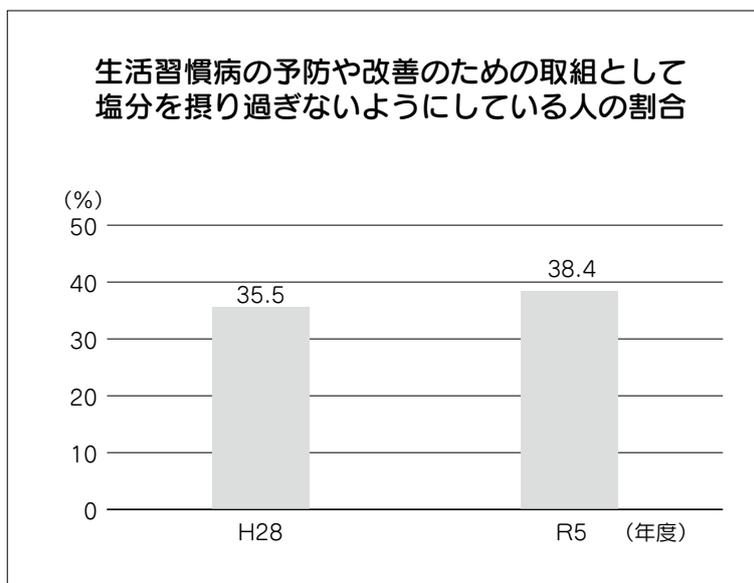
出典：平成24年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

野菜の入った料理を1日平均5皿以上食べる人の割合は2.6%で、2012(平成24)年度より低くなっています。減塩に取り組んでいる人の割合は2016(平成28)年度と比べるとわずかに増えています。野菜の摂取量の増加は、体重コントロールに重要な役割があること、減塩は血圧低下により結果的に循環器病を減少させるとされていることから生活習慣病の発症・重症化予防のためにも引き続き取り組むことが重要です。

また、共食は、バランスよく食べることや多様な食品を食べるといった健康的な食生活に関係していることから、共食について周知していくことも大切です。



出典：平成24年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成28年度大分市民の「食」に関する意識調査・  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

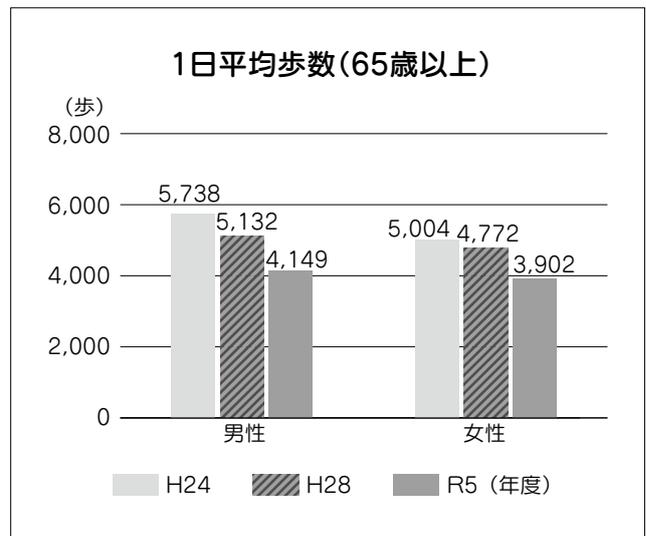
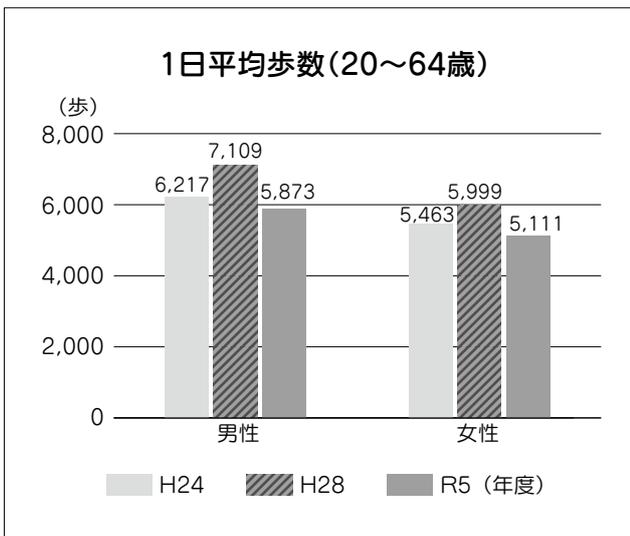
(イ) 身体活動・運動

【評価と課題】

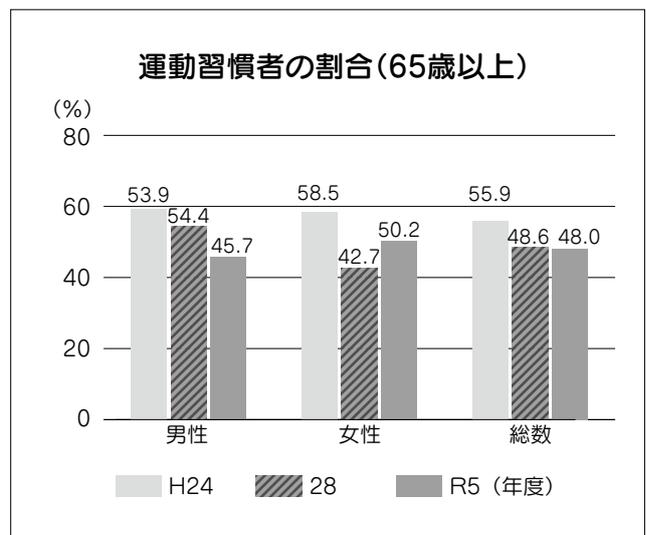
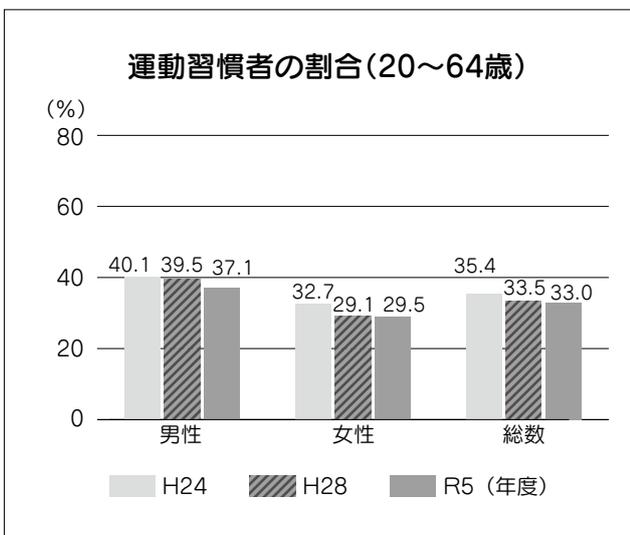
身体活動量が多い人や運動をよく行っている人は、虚血性心疾患、高血圧症、糖尿病、肥満、骨粗鬆症等の罹患率や死亡率が低いこと、また、身体活動や運動はメンタルヘルスや生活の質の改善に効果をもたらすことが分かっています。

日常生活における歩数を見ると、20～64歳、65歳以上の男女ともに2012(平成24)年度より減少しています。運動習慣のある人(1回30分以上、週2回以上、1年以上継続)の割合も減少傾向にあります。

労働、家庭、移動の場面における機械化、自動化の進展により、市民の身体活動量が減少しやすい社会環境にあることから、引き続き、身体活動・運動の取組を積極的に進めていく必要があります。日常生活の中で無理なく運動できる環境づくりや情報提供が重要です。



出典：平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

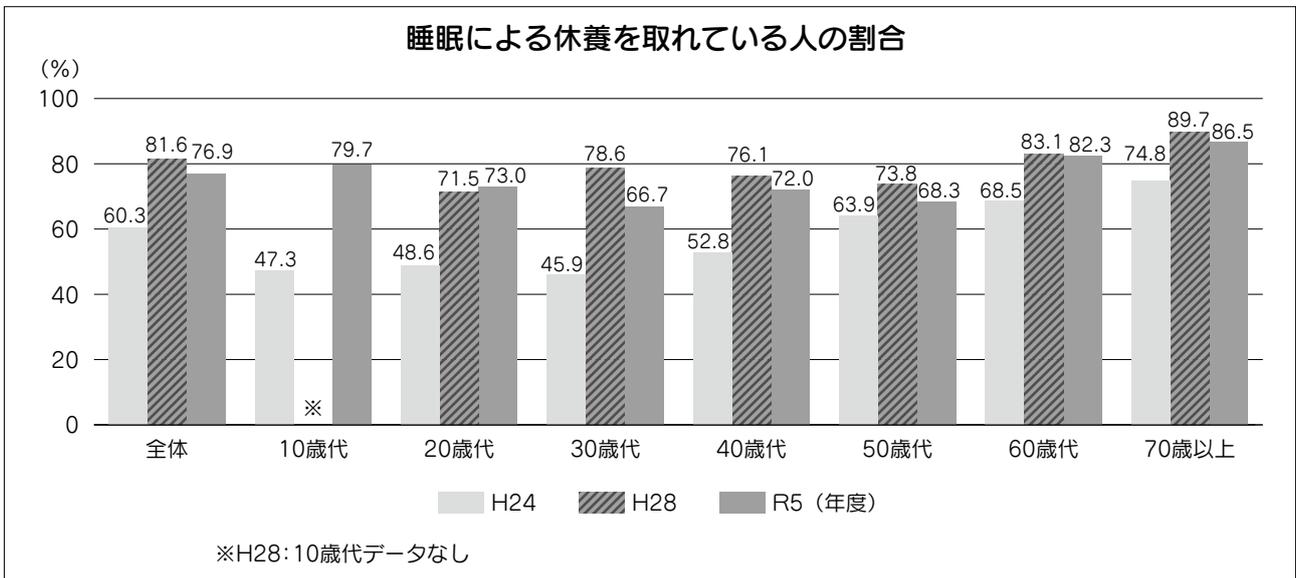
(ウ) 休養

【評価と課題】

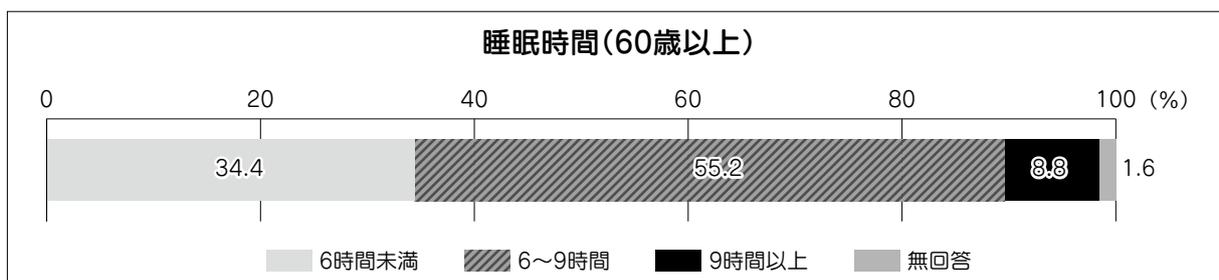
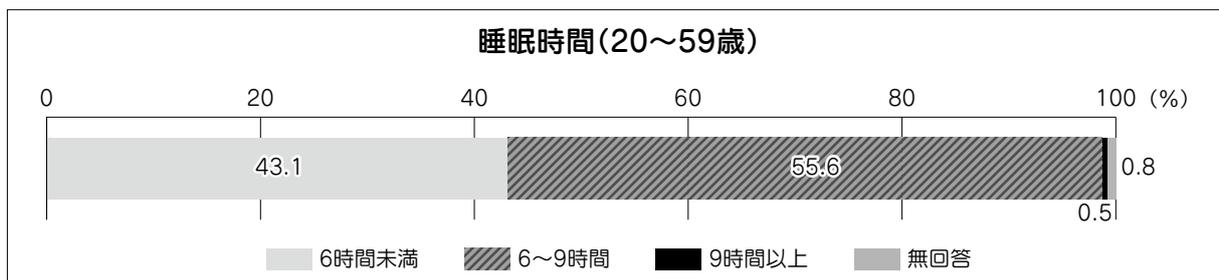
日々の生活において十分な睡眠をとり、ストレスと上手につきあうことは、こころの健康に欠かせない要素です。一人ひとりが日常生活の中で自分に合った休養を適切に取り入れた生活習慣を確立し、実践することが大切です。

睡眠による休養を「充分とれている」、「まあまあとれている」と回答した人の割合は、2012(平成24)年度と比較すると全ての年代で改善しています。

また、近年、20～59歳においては6時間未満の睡眠、60歳以上においては8時間以上の睡眠(寢床で過ごす時間)が寿命短縮に影響することが明らかになっています。これらの年代の睡眠時間を見ると、20～59歳の6時間未満が43.1%、60歳以上では8時間以上が8.8%でした。今後も、睡眠も含め広く休養の効果に関する普及啓発が重要です。



出典：平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

## (工) 飲酒

### 【評価と課題】

アルコールは様々な健康障害との関連が指摘されており、特にアルコール性肝障害、膵炎等の臓器障害、高血圧症、心血管障害、がん等に深く関連します。これに加え、不安やうつ、自殺、事故等のリスクにも関連しています。

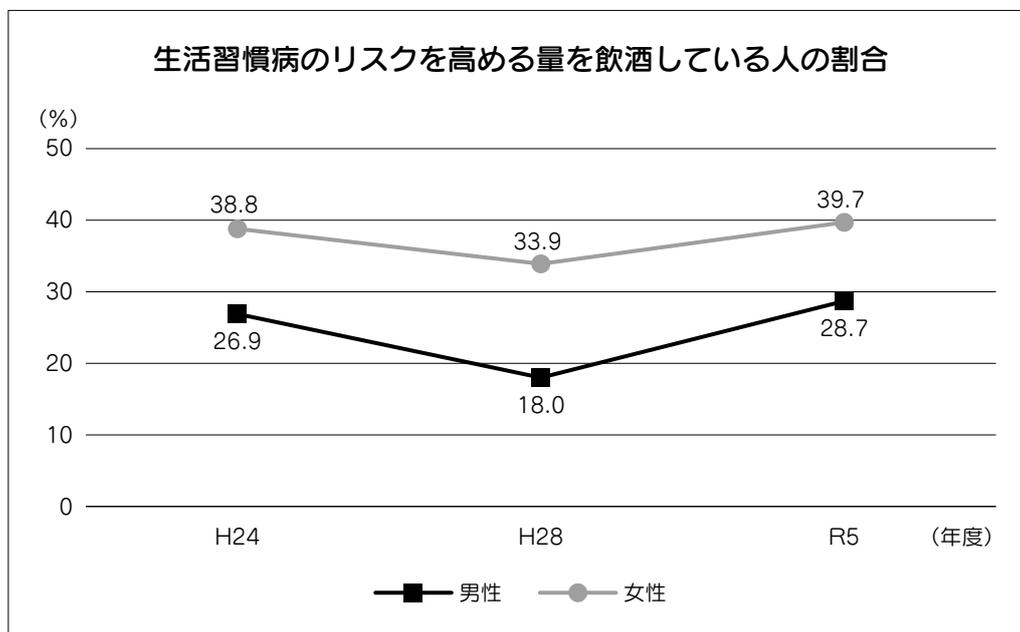
生活習慣病のリスクを高める量※の飲酒をしている人の割合を見ると、2012(平成24)年度と比較して2023(令和5)年度は男女ともに増加しており、男性より女性の割合が高い状況でした。

20歳未満では、身体が発達する過程にあることから、飲酒による心身への好ましくない影響が大きいことや法律上禁止されていることを踏まえ、引き続き20歳未満の飲酒を完全になくすための取組が必要です。

また、妊娠中の飲酒についても、胎児に悪影響を及ぼす可能性があることから、妊娠中の飲酒をなくす取組が必要です。

今後も、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合を減らすとともに、偏った食生活や運動不足等の他の生活習慣病等のリスクとあわせた取組を展開することが重要です。

※ 全死亡、脳梗塞及び虚血性心疾患について男性44g/日、女性22g/日程度以上の飲酒(純アルコール摂取)によるリスクが高くなることが明らかになっていることから「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」を男性1日平均40g以上、女性20g以上と定義する。



出典:平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査・  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

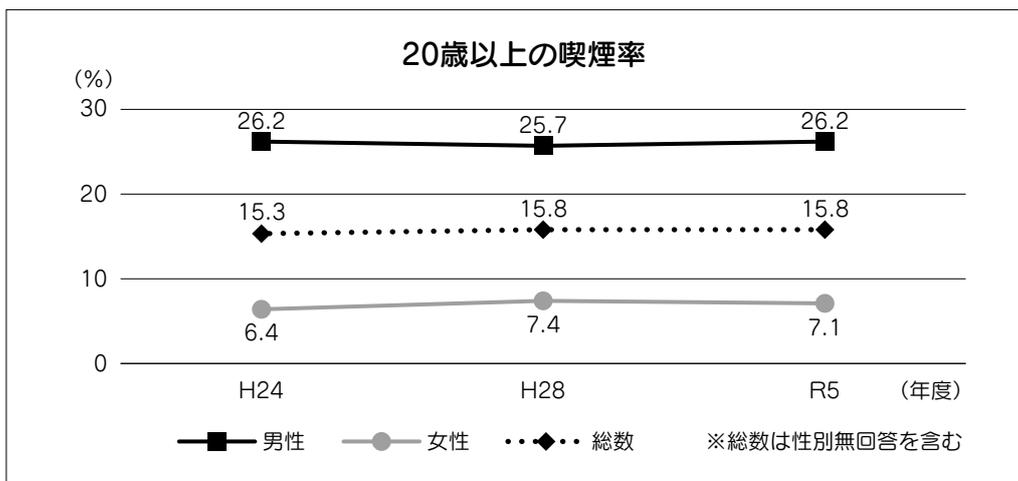
(才) 喫煙・COPD(慢性閉塞性肺疾患)

【評価と課題】

喫煙は、がん、循環器病、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、糖尿病、周産期の異常(早産、低出生体重児の出産、死産、乳児死亡等)の主要なリスク要因であることから、喫煙率及び受動喫煙の機会の減少は、喫煙による多くの疾患の発症や死亡の減少につながります。

20歳以上の喫煙率の推移を見ると、2012(平成24)年度から横ばいとなっており、性別では女性より男性の喫煙率が高くなっています。また、20歳未満では2.3%の女性が喫煙しています。

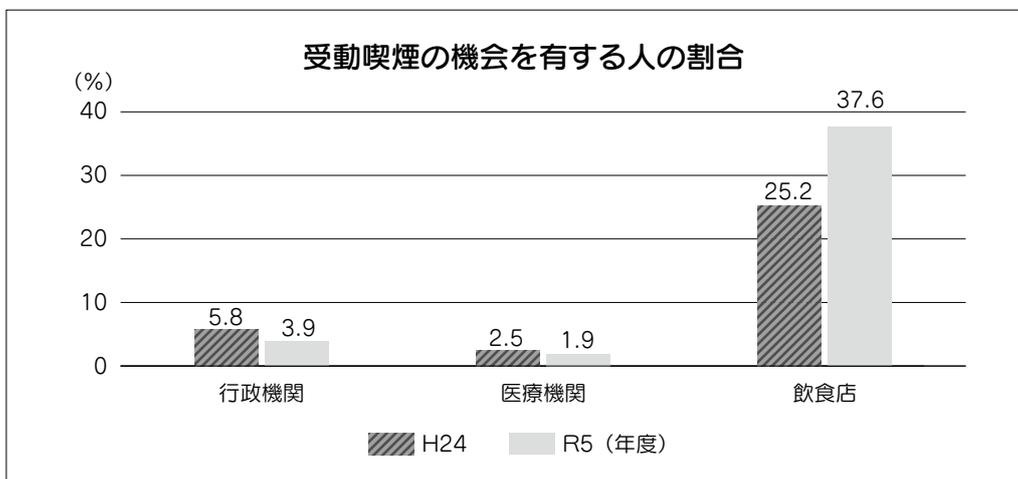
喫煙者の中で喫煙をやめたいと思っている人の割合は43%であり、禁煙希望者が禁煙方法にアクセスしやすい環境整備や情報提供が必要です。



出典:平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

分煙を実行している人の割合(職場・家庭の両方)は2010(平成22)年度の27.7%から2022(令和4)年度は41.1%と増加しています。一方、たばこの煙で不快な思いをした場所については、行政機関、医療機関は減少していますが、飲食店は増加しています。

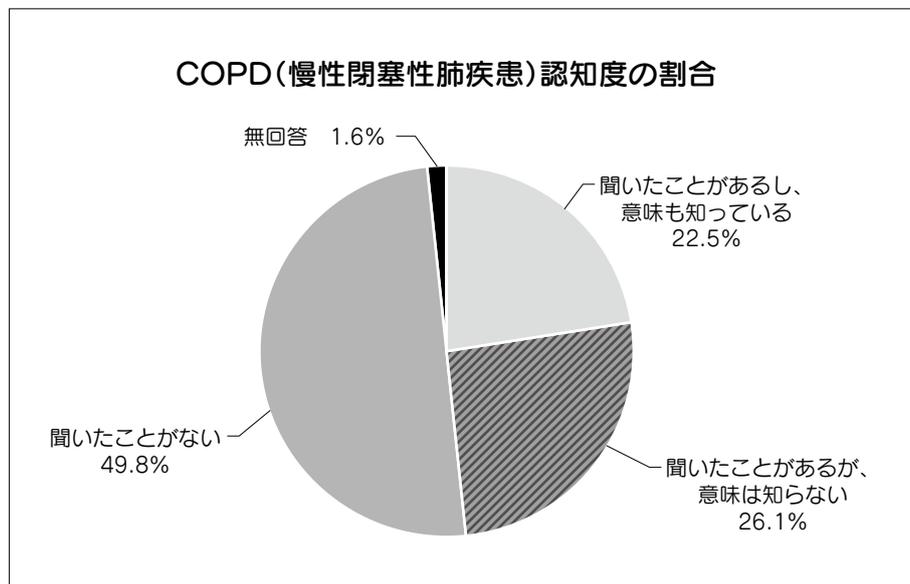
改正健康増進法により、医療機関や行政機関は敷地内禁煙、飲食店は原則屋内禁煙(または喫煙室設置)となりましたが、未だ多くの方が受動喫煙にさらされている状況であり、飲食店や人が多く集まる施設に対し、受動喫煙防止対策に取り組むよう理解と協力を引き続き求めていく必要があります。



出典:平成24年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

COPDの認知度については「聞いたことがある」と答えた人は48.6%であり、2012(平成24)年度と比較して大きな変化はありません。また、「聞いたことがない」「聞いたことがあるが、意味は知らない」と答えた人の割合は75.9%でした。

今後も、COPDに関する知識についての普及啓発が必要です。



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

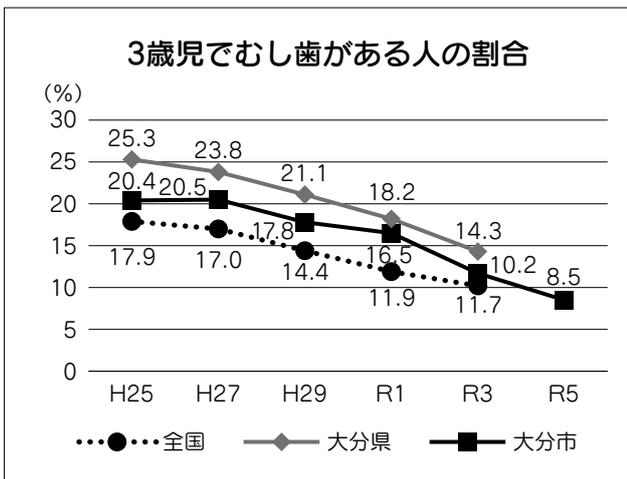
(カ) 歯・口腔の健康

【評価と課題】

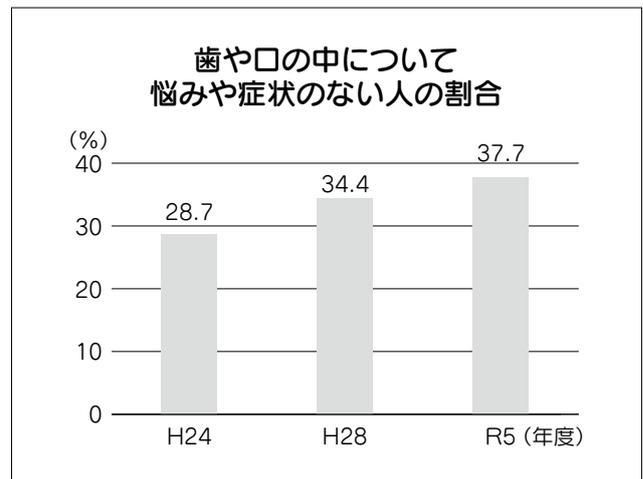
歯・口腔の健康は、口から食べる喜び、話す楽しみを保つ上で重要であり、身体的な健康のみならず、精神的、社会的な健康にも大きく関係しており、健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしていると言われています。

3歳児のむし歯保有率を見ると減少傾向で全国平均を上回っていますが、その差は縮小してきています。「歯や口の中の悩みや症状がない人」の割合は、2012(平成24)年度より増加し、改善傾向にあります。また、歯周病と言われたことや治療歴のある人の割合は、2012(平成24)年度より増加しています。定期的(1年以内)に歯科健診を受けている人の割合は、2012(平成24)年度より増加していますが、目標値に達していません。

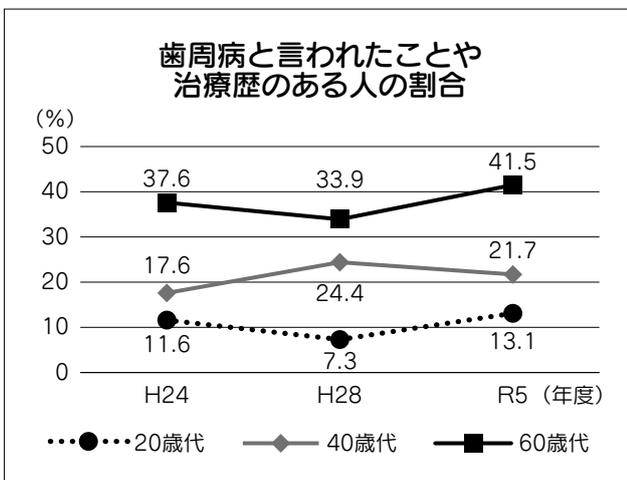
生涯を通じた歯・口腔の健康のためには、歯科疾患の予防や重症化予防を図ることが重要です。歯の喪失の主な原因疾患はむし歯と歯周病であり、乳幼児期からのむし歯予防と成人期における歯周病予防が不可欠であることから、歯科保健に関する情報提供や普及啓発が必要です。



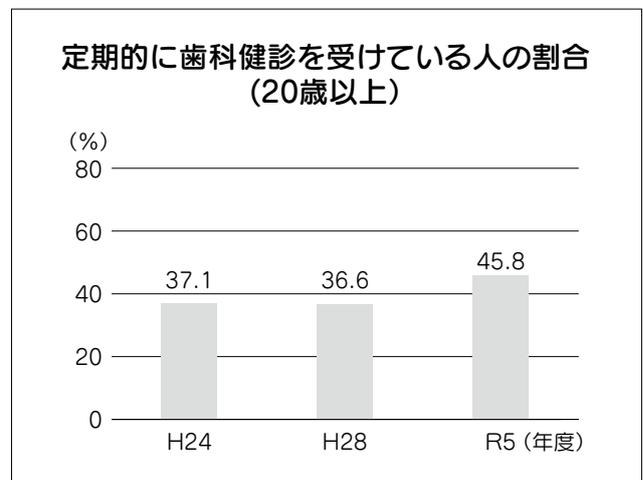
出典：地域保健・保健事業報告(全国・大分県)  
3歳児歯科健康診査結果(大分市)



出典：平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成24年度・平成28年度大分市民生活習慣実態調査  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

### 3 第3期大分市食育推進計画の評価と課題

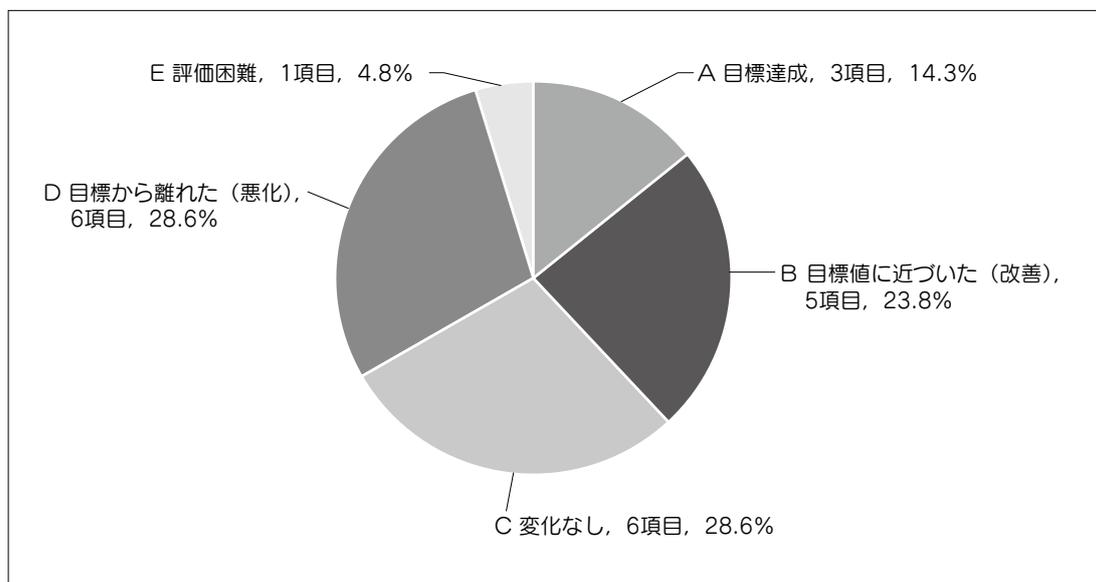
#### (1) 評価結果

##### ① 評価方法

第3期大分市食育推進計画の21項目の目標達成状況について、ABCDEの5段階で評価しました。ただし、目標値が参加者数等の累積となっている3項目については、目標年の見込み数値を算出し、ABCの3段階の評価としました。

評価区分		判断基準
A	目標達成	・ 目標値以上、R6年度に超える見込みのあるもの
B	目標値に近づいた(改善)	・ ベースライン値から現状値までの数値の変化割合(増減率)が、指標の方向に対して+5%超 ・ R6年度の見込み数値が目標の90%以上となるもの
C	変化なし	・ 増減率が指標の方向に対して±5%以内 ・ R6年度の見込み数値が目標の90%未満となるもの
D	目標から離れた(悪化)	増減率が指標の方向に対して-5%超
E	評価困難	増減率の比較ができない等評価が困難

##### ② 評価結果



第3期大分市食育推進計画 目標項目の達成状況《基本目標別》

基本目標 評価区分	健康な体をつくる		安全に食べる		食と農に関する知識を養い、 環境に配慮する		食文化を大切にし、食事を楽しむ	
	A 目標達成	3歳児健康診査でのむし歯保有率の低下		食中毒予防に関する知識を持っている人の割合の増加 食中毒予防を実践している人の割合の増加				
B 目標値に近づいた(改善)	朝食を欠食する3歳児の割合の減少 朝食を欠食する20~30歳代の割合の減少 食生活改善推進員養成講座修了者数の増加 12歳児のむし歯保有数(1人当たりの)の減少						家族と一緒に食事を食べる事が週に1回もない人の割合の減少	
C 変化なし	朝食を毎日食べる小学生の割合の増加 食生活改善のために何か取組を実践している人の割合の増加		市民に向けた食品衛生に関する講習会の参加数の増加 食品表示に関する講習会参加人数		地元産の農産物等を意識して購入する人の割合の増加 1人1日当たりの燃やせるごみの排出量の削減			
食育に関心を持っている人の割合の増加								
D 目標から離れた(悪化)	朝食を毎日食べる中学生の割合の増加 主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べる人の割合の増加 農林漁業を体験したい人の割合の増加						食文化や伝統料理に関心のある人の割合の増加 地域等で共食したいと思う人が共食する割合の増加	
E 評価困難	80歳で20人以上自分の歯を有する人の割合の増加							

## (2) 各分野における評価と課題

### ① 健康的な食生活の実践

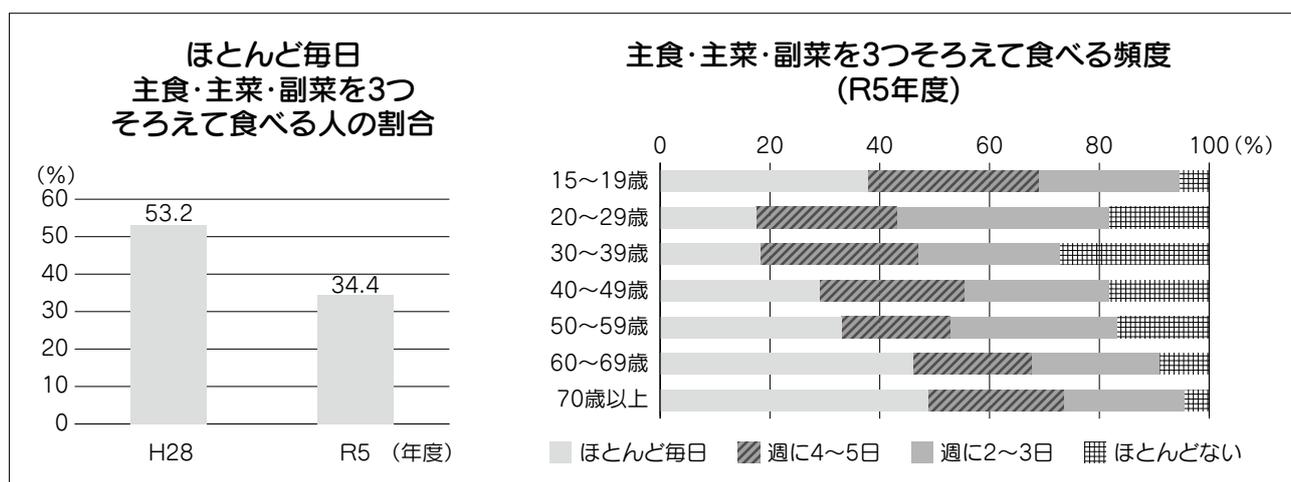
#### 【評価と課題】

生涯にわたって心身の健康を保ちながら健全な食生活を実践するためには、市民一人ひとりが栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとることが必要です。また、こどもの頃から朝食を毎日食べることは、栄養バランスに配慮した食生活や基本的な生活習慣の確立につながるため、重要となります。

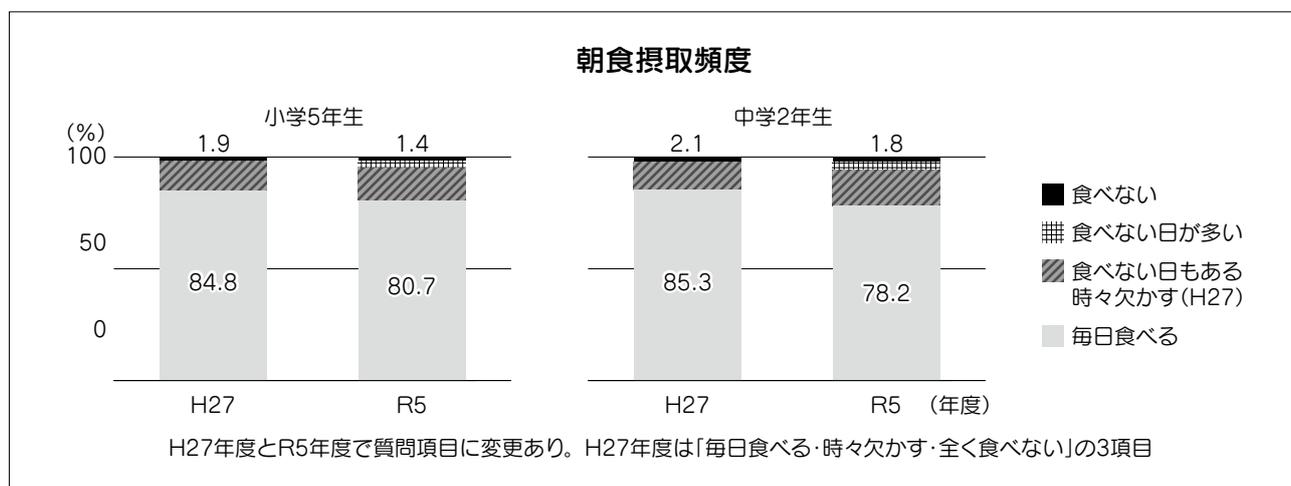
栄養バランスの指標となる主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている人の割合は、2016(平成28)年度より減少しています。特に20歳代・30歳代では、主食・主菜・副菜をそろえて食べる人が少なくなっています。

また、朝食を毎日食べる小学生は84.8%から80.7%、中学生は85.3%から78.2%と2015(平成27)年度より減少していますが、全く食べないと答えた小中学生の割合には、大きな変化がありませんでした。

バランスのとれた食事や規則正しい食生活について、こどもの頃から関心を持ち、健全な食生活を実践できるよう促す取組が必要です。



出典:平成28年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典:平成27年度・令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## ② 歯の健康の保持増進

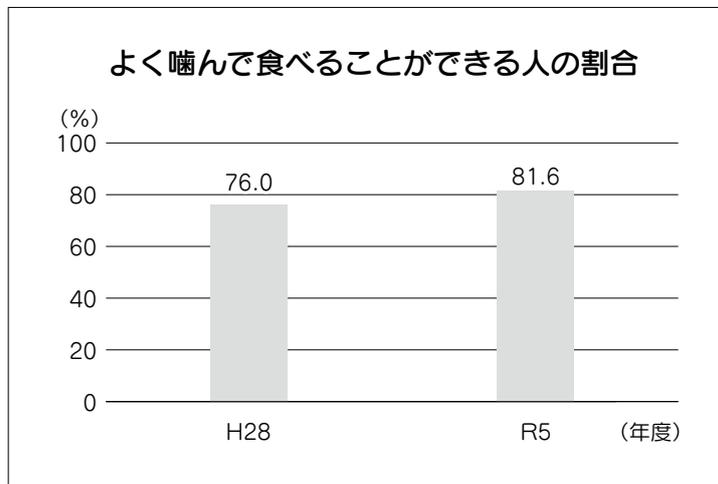
### 【評価と課題】

生涯にわたってよく噛んで味わって食べるためには、口腔機能が十分に発達、維持されることが重要であり、それぞれのライフステージに応じた歯と口腔の健康づくりを推進する必要があります。

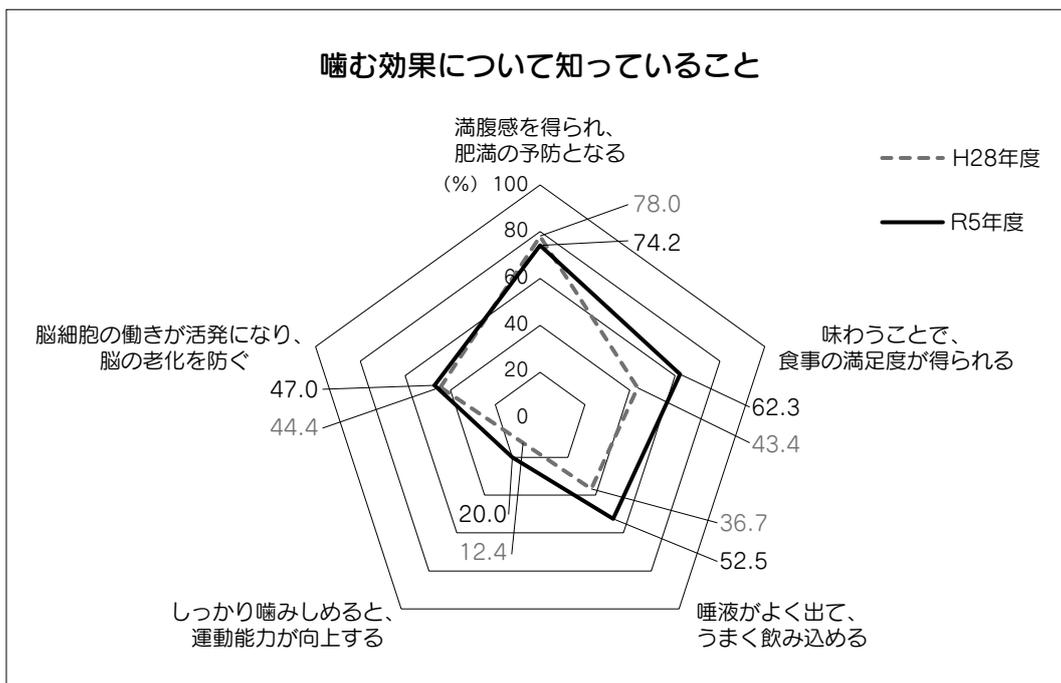
目標項目である3歳児健康診査でのむし歯保有者率と12歳児のむし歯保有数については、それぞれ減少し、改善傾向にあります。

また、よく噛んで食べることができている人や定期的な歯科健診を受けている人も2016(平成28)年度より増加しています。噛むことの効果の5つの項目について、それぞれ知っている人と答えた人の割合は、2016(平成28)年度、2023(令和5)年度を比較すると維持または増加しています。

市民が歯と口腔の健康づくりに取り組み、生涯を通じてよく噛んで食べることができるよう、引き続き、食育の視点からも普及啓発を図ることが重要です。



出典：平成28年度大分市民生活習慣実態調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成28年度大分市民の「食」に関する意識調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

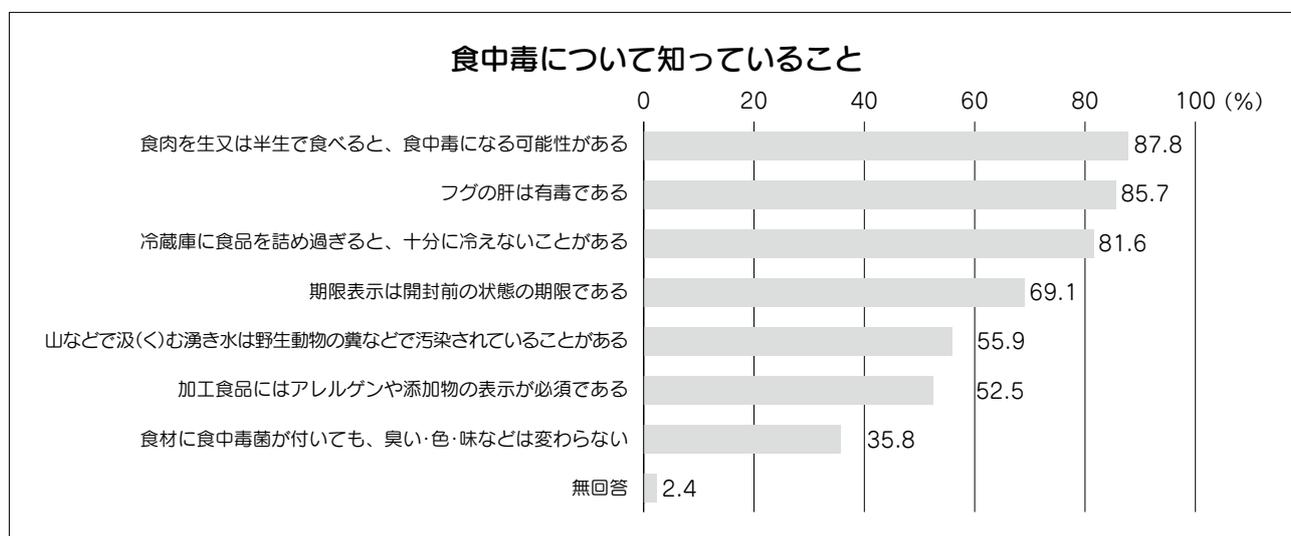
### ③ 食中毒予防と食の安全に関する知識の向上

#### 【評価と課題】

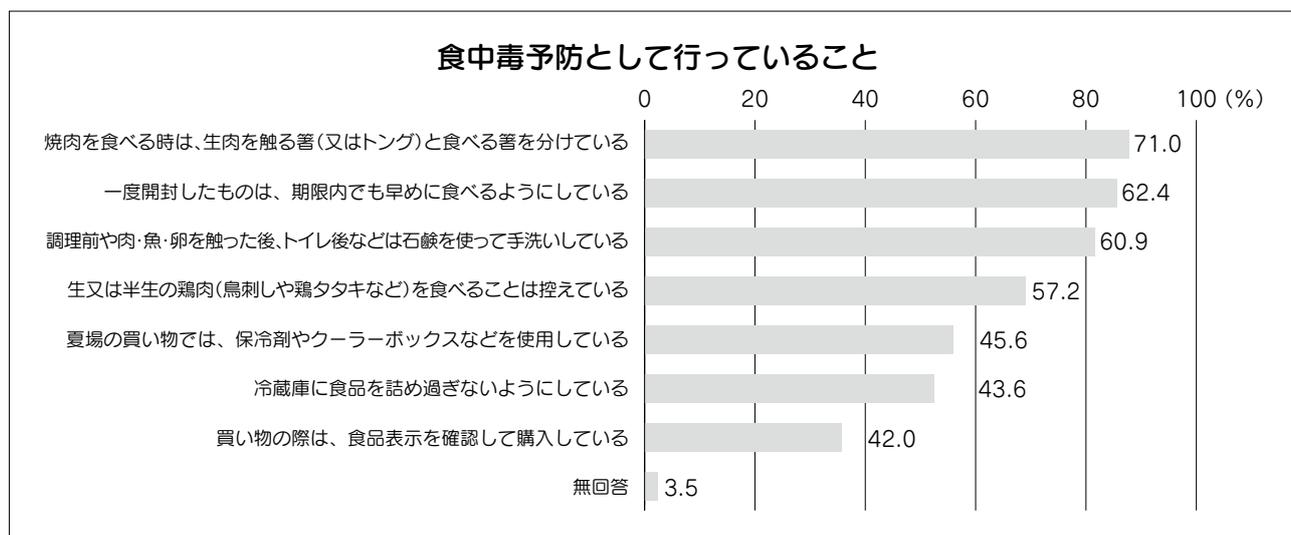
健康で豊かな食生活を送るためには、食品による健康被害の未然防止といった安全性の確保に加え、市民一人ひとりが食品の選び方や適切な調理法、保管方法等について基礎的な知識を身につけ、その知識を踏まえて行動していくことが重要です。

食中毒について知っていることは、「食肉の生又は半生で食べると食中毒になる可能性がある」ことを知っている人が87.8%と最も多く、次いで「フグの肝は有毒である」、「冷蔵庫に食品を詰め過ぎると十分に冷えないことがある」の順でした。これら7項目中4項目以上選択した人の割合は74.0%でした。また、食中毒予防として行っていることでは、7項目中4項目以上を選択した人の割合は55.8%でした。

安心・安全な食生活の実現に向け、市民が食中毒予防に関する正しい知識を踏まえて行動できるよう、普及啓発が必要です。



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

#### ④ 適切な食品表示の理解を深める

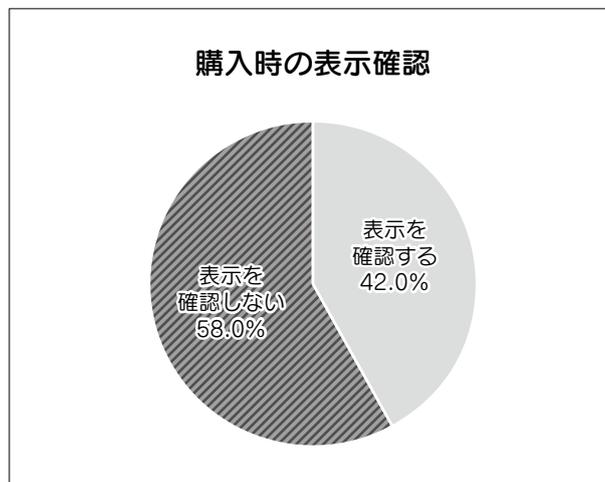
##### 【評価と課題】

食品表示は、食品の内容を正しく理解し、選択したり適正に使用したりする上で重要な情報源となっています。

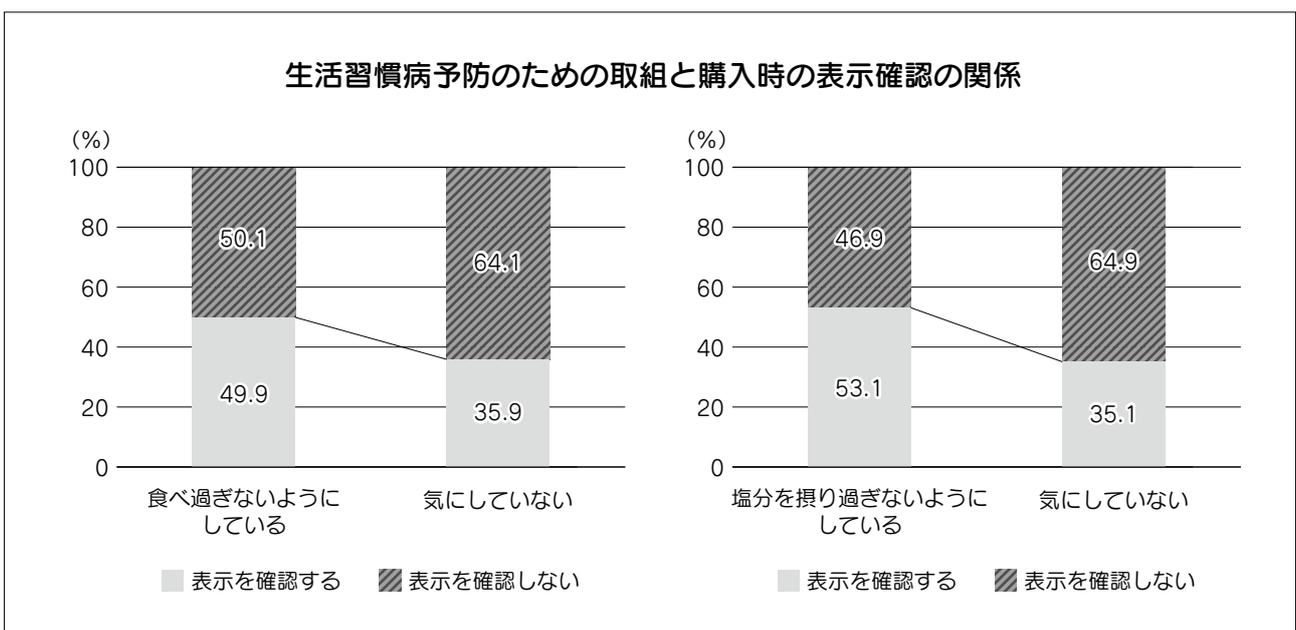
食中毒を予防するための行動として、「食品表示を確認して購入している」と答えた人は42.0%でした。

また、「食べ過ぎないようにしている」、「塩分を摂り過ぎないようにしている」等の生活習慣病の予防や改善のための取組をしている人は、食品表示を確認して購入する割合が高くなっており、安全に関する情報だけでなく、健康に関する情報についても食品表示を活用していると考えられます。

食品表示には原材料の情報はじめ、アレルギーや内容量、賞味期限や保存方法、栄養成分等の様々な情報が示されていることから、食品表示の活用について広く普及啓発を行うことが大切です。また、不適切な食品表示は市民の不利益や健康被害につながるおそれもあることから、食品関連事業者に対する適正な食品表示の助言・指導を行うことが必要です。



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

## ⑤ 食と農をつなぐ地産地消の推進

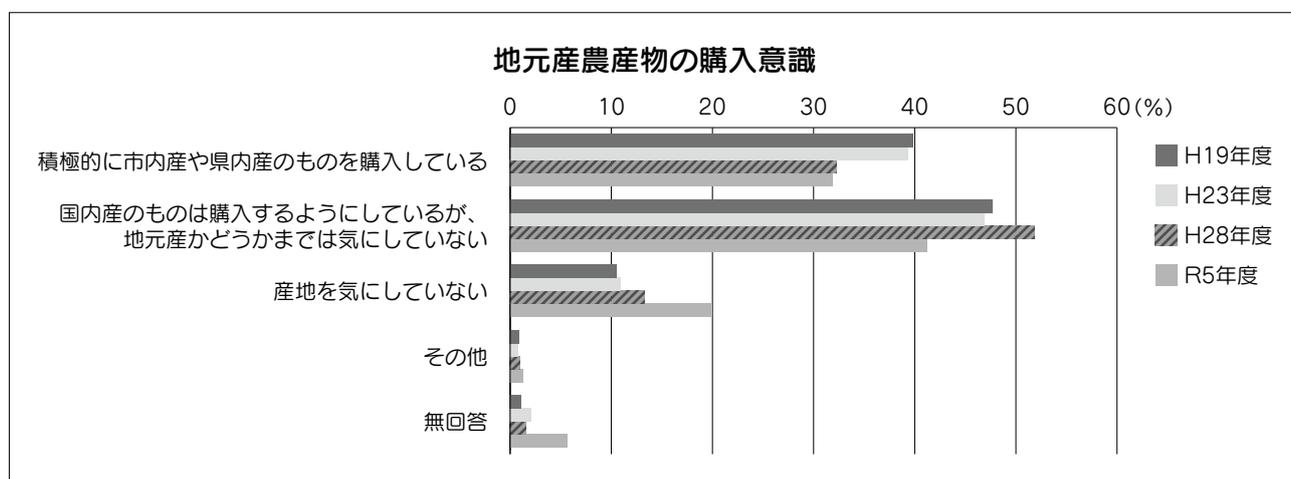
### 【評価と課題】

地域でとれた農林水産物を消費することは、食を支える農林水産業の活性化や環境負荷の低減につながります。

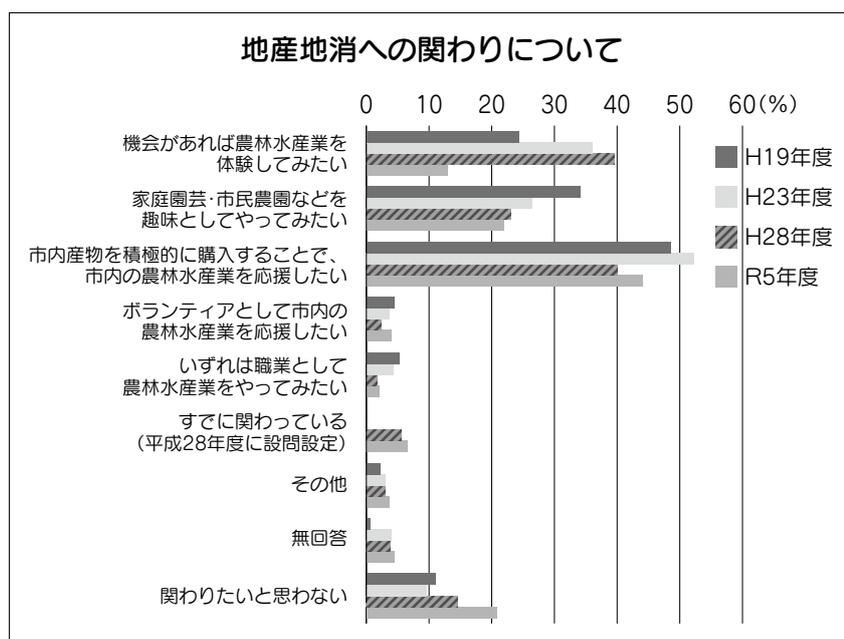
2023(令和5)年度は、積極的に市内産や県内産の農産物を購入している人は31.9%、産地を気にしていない人は19.9%です。産地を気にしていない人は、2011(平成23)年度、2016(平成28)年度と比較すると増加しています。

その一方で、主に市内産や県内産の農産物や加工品を取り扱う直売所や道の駅の販売額は年々増加傾向にあり、地元の旬の食材や生産者の顔が見える商品の需要は高いと考えられます。

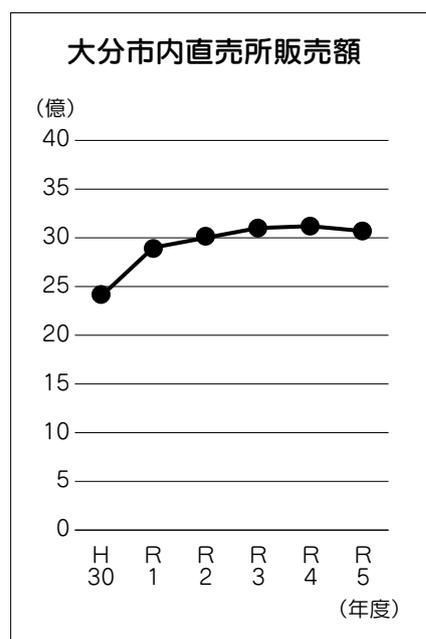
今後も農林水産業・農林水産物等に関する情報発信やイベント開催等により、地元産物入手できる環境づくりに努めるとともに、生産者と消費者・食品関連事業者等との連携を深め、市民の地元産物への関心を高める必要があります。



出典：平成19年度・23年度・28年度大分市民の「食」に関する意識調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成19年度・23年度・28年度大分市民の「食」に関する意識調査  
令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：農林水産物直売所等実績調査

## ⑥ 食品ロスの削減

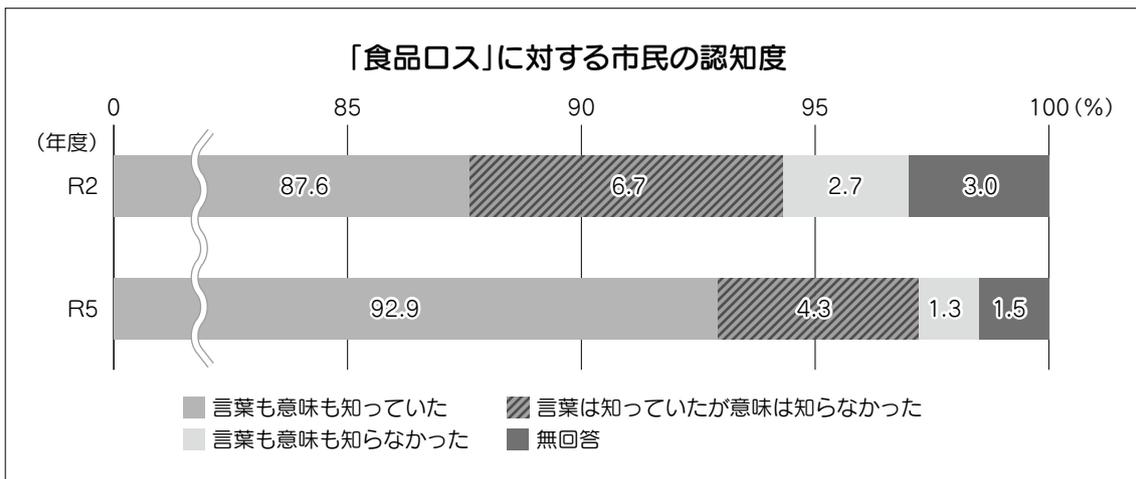
### 【評価と課題】

食品ロスは、食品の生産、製造、販売、消費等の各段階において様々な形で発生しており、この削減は喫緊の課題となっています。

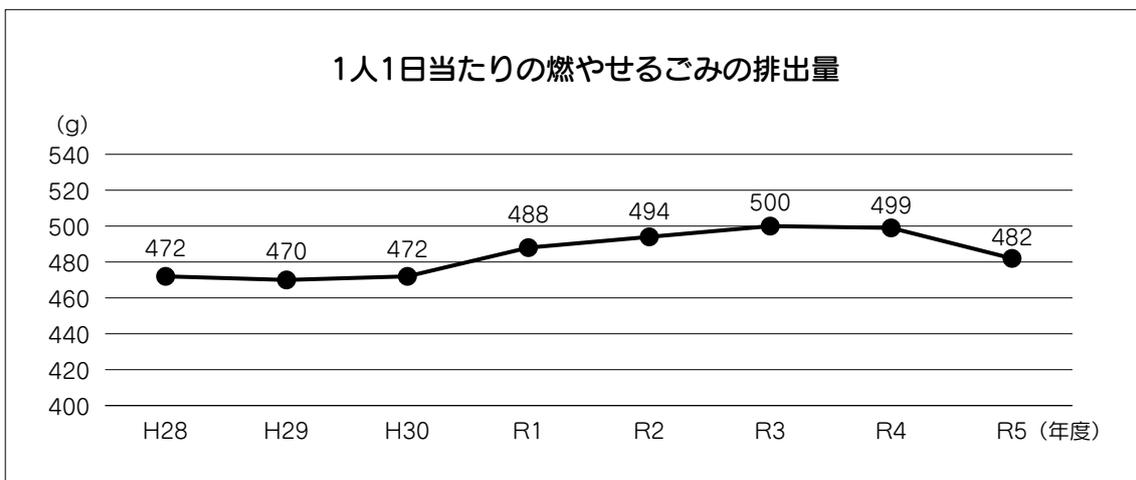
「食品ロスの言葉も意味も知っている」と答えた人の割合は、2020(令和2)年度の87.6%から92.9%へと増加し、「言葉も意味も知らない」と答えた人の割合は2.7%から1.3%へと減少し、食品ロスの認知度は向上しています。また、1人1日当たりの燃やせるごみの排出量は、2019(令和元)年以降増加していましたが、2021(令和3)年度をピークに減少傾向となっています。

大分市ではこれまで、家庭ごみを対象にした3きり運動や、事業系ごみを対象にした宴会等での食べ残しを減らす3010運動をはじめ、メディアやイベント等を通して食品ロスの削減に関する取組を実施してきました。

食品ロスの削減には、「理解」するだけでなく「行動」に移すことが必要であることから、食品ロスに関する認知度の向上を図るだけでなく、具体的な行動につながるよう、市民・事業者に行動の変容を促すための周知啓発に取り組む必要があります。



出典：大分市「ごみ減量・リサイクル」及び「家庭ごみ有料化制度」に関する市民意識調査報告書



出典：大分市「ごみ減量・リサイクル」及び「家庭ごみ有料化制度」に関する市民意識調査報告書

## ⑦ 食文化や郷土料理への関心を高める

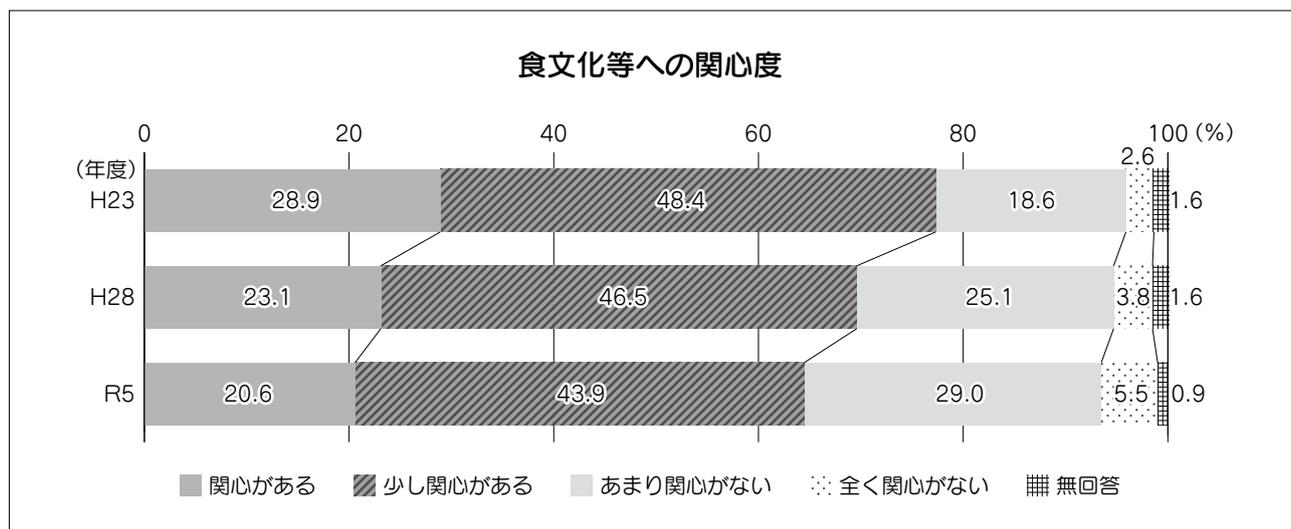
### 【評価と課題】

郷土料理や行事食等の地域に根ざした伝統的な食文化は、その土地の産物を使って独自の料理法で作られ、受け継がれてきたものです。伝統料理に関心を持つことは、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深める上で有効な手段です。

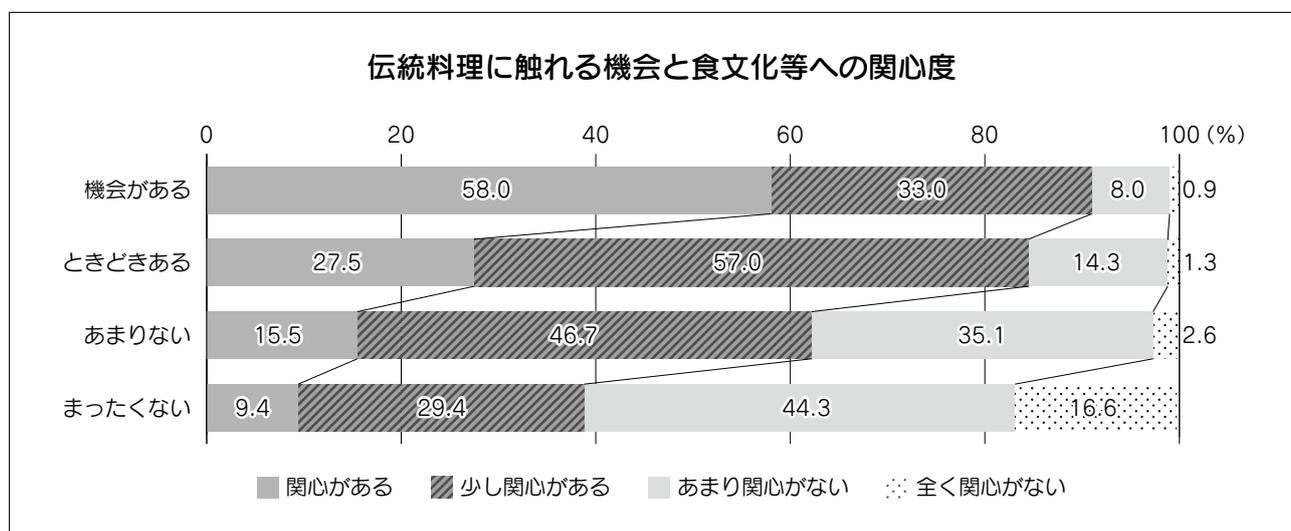
食文化等に「関心がある」「少し関心がある」と答えた人の割合は64.5%で、2011(平成23)年度、2016(平成28)年度と比較すると減少傾向です。

また、伝統料理に触れる機会と食文化等への関心度をみると、伝統料理を「作ったり食べたりする機会がある」人ほど、関心度も高い傾向にあります。

核家族化の進行や食生活の変化により、伝統料理を味わい、次世代に受け継ぐような機会が少なくなっています。市民一人ひとりが食文化に関心を持ちながら次世代へ継承していくためには、家庭だけでなく幼児教育・保育施設や学校等での給食、地域の行事や料理教室等を通して伝統料理に触れる機会を設けることが大切です。



出典：平成23年度・28年度大分市民の「食」に関する意識調査 令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

## ⑧ 共食の推進

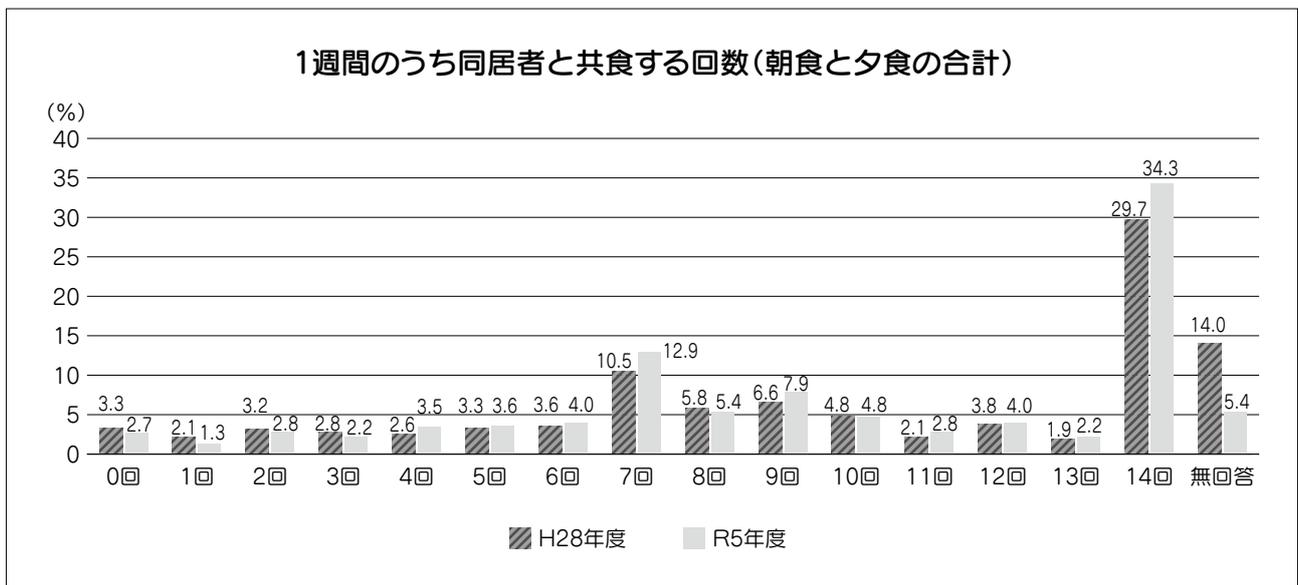
### 【評価と課題】

共食は、食を通じたコミュニケーションや豊かな食体験につながることから、家族だけでなく、地域においても取組を進める必要があります。

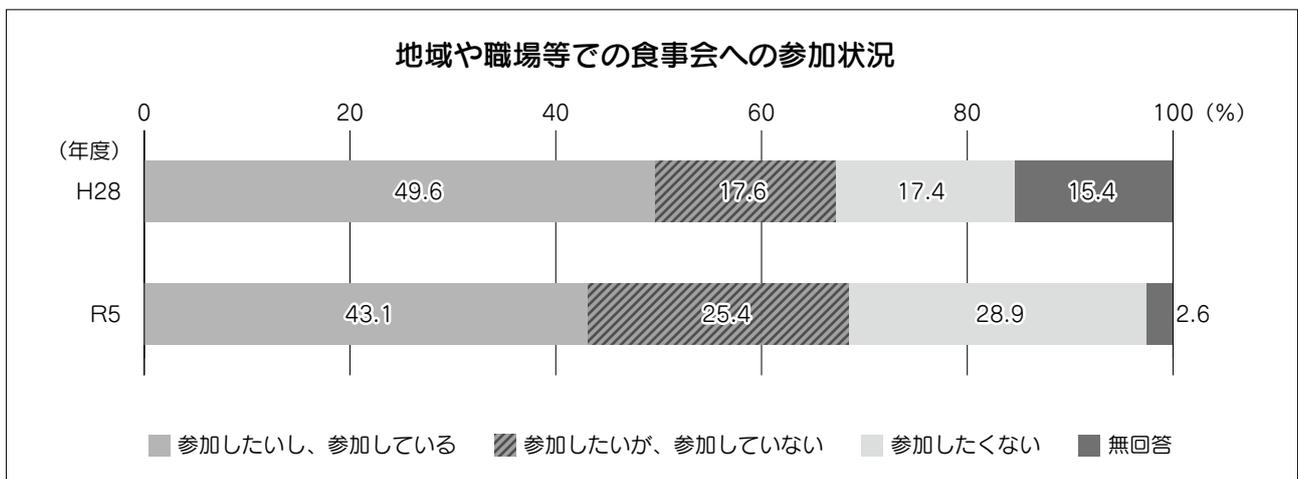
同居者と共食する回数は、「14回」の割合が最も多く34.3%、次いで「7回」が12.9%であり、2016(平成28)年度と比較するとそれぞれ増加しました。家族と共食する機会が週に1回もない人の割合は2.7%であり、2016(平成28)年度より減少しました。

地域等での食事会について、「参加したいし、参加している」人の割合は43.1%であり、2016(平成28)年度より減少しました。機会があれば「参加したいが、参加していない」人の割合は25.4%であり、2016(平成28)年度より増加しました。

共食は、健康的な食生活や規則正しい食生活、生活リズムとも関係があることから、家庭内にとどまらず、生活の中でつながりのある地域や所属する団体等においても共食の機会を得られるような取組を進めることが重要です。



出典：平成28年度大分市民の「食」に関する意識調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)



出典：平成28年度大分市民の「食」に関する意識調査・令和5年度「健康」と「食」に関する実態調査(大分市)

# 4 第2期いきいき健康大分市民21及び第3期大分市食育推進計画 目標項目評価一覧

## 第2期いきいき健康大分市民21 目標項目評価一覧

- A: 目標達成 目標値以上  
 B: 目標値に近づいた(改善) ベースライン値から現状値までの数値の変化割合(増減率)が、指標の方向に対して+5%超  
 C: 変化なし 増減率が指標に対して±5%以内  
 D: 目標から離れた(悪化) 増減率が指標の方向に対して-5%超  
 E: 評価困難 増減率の比較ができないなどにより評価が困難

※1 類似の調査等を参考値として計上している項目

※2 同様のアンケート結果が得られない項目

### 1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小の実現

	No.	目標項目	策定時		中間時	現状値	目標値	評価判定	データの根拠
			2012(H24)年度	2016(H28)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度			
健康寿命	1	日常生活に制限のない期間の平均	男性	77.50年	79.54年	80.82年	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	A	大分県健康指標計算システムにて算出 H24:H18~22年の平均値 H28:H23~27年の平均値 R5:H30~R4年の平均値
			女性	80.32年	83.77年	84.84年		A	

### 2 主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

	No.	目標項目	策定時		中間時	現状値	目標値	評価判定	データの根拠	
			2012(H24)年度	2016(H28)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度				
がん	2	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少(10万人当たり)	73.0 (H22年)		70.5 (H27年)	58.1 (R4年)	54.9	B	厚労省「人口動態統計」より直接法にて算出 *基準人口:S60年モデル人口	
	3	がん検診の受診率の向上 胃がん	男性	1.9%	3.9%	2.5% (※1)	5.0%	E	地域保健・健康増進事業報告	
			女性	2.7%	5.6%	4.7% (※1)	5.0%	E		
	4	がん検診の受診率の向上 肺がん	男性	20.5%	19.0%	2.8% (※1)	35.0%	E		
			女性	22.0%	23.3%	8.0% (※1)	35.0%	E		
	5	がん検診の受診率の向上 大腸がん	男性	5.7%	7.3%	2.4% (※1)	15.0%	E		
			女性	6.9%	12.3%	7.3% (※1)	15.0%	E		
6	がん検診の受診率の向上 子宮頸がん	女性	11.7%	14.1%	13.6% (※1)	30.0%	E			
7	がん検診の受診率の向上 乳がん	女性	14.2%	18.4%	15.2% (※1)	30.0%	E			
循環器疾患・糖尿病○(慢性腎臓病)	8	脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少(10万人当たり)	男性	43.1 (H22年)	29.5 (H27年)	28.2 (R4年)	29.0以下	A	厚労省「人口動態統計」より直接法にて算出 *基準人口:S60年モデル人口	
			女性	20.9 (H22年)	16.5 (H27年)	17.1 (R4年)	15.8以下	B		
	9	虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少(10万人当たり)	男性	30.2 (H22年)	24.7 (H27年)	22.3 (R4年)	24.0以下	A		
			女性	11.1 (H22年)	9.2 (H27年)	7.4 (R4年)	5.6以下	B		
	10	高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下)	男性	136.7 (H23年度)	132.9 (H27年度)	132.1 (R4年度)	132.7	A		
			女性	132 (H23年度)	129.2 (H27年度)	130.2 (R4年度)	128	C		
	11	LDLコレステロール160mg/dl以上の人の割合の減少	男性	12.2% (H23年度)	9.4% (H27年度)	8.4% (R4年度)	9.0%	A		特定健康診査(大分市国保分)
			女性	18.8% (H23年度)	15.3% (H27年度)	12.1% (R4年度)	14.0%	A		
	12	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	6,923人 (H23年度)		6,313人 (H27年度)	5,695人 (R4年度)	4,100人	B		
	13	特定健康診査の実施率の向上	35.1% (H23年度)		35.6% (H27年度)	33.4% (R4年度)	60.0%	C		特定健康診査・特定保健指導の実施状況(大分市国保分)
	14	特定保健指導の実施率の向上	19.2% (H23年度)		16.6% (H27年度)	26.1% (R4年度)	60.0%	B		
15	合併症(糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数)の減少	9人	14人	26人 (※1)	13人	E	(H24・28)大分県国民健康保険団体連合会 医療費分析システム (R5)大分県国民健康保険団体連合会 MAP・統計情報システム 新とよ助(H29~新システムへ移行)(参考値)			
16	糖尿病治療継続者の割合の増加	53.4%		59.9%	(※2)	63.0%	E	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査		
17	血糖コントロール不良者の割合の減少(HbA1cがJDS値8.0%(NGSP値8.4%)以上の人の割合の減少)	0.26% (H23年度)		0.80%	0.70%	0.74%	A	特定健康診査(大分市国保分)		
18	糖尿病有病者の増加の抑制	14,259人		14,125人	11,634人 (※1)	16,013人	E	(H24・28)大分県国民健康保険団体連合会 医療費分析システム (R5)国保データベースシステム (H29~新システムへ移行)		

3 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上

	No.	目標項目	策定時		中間時	現状値	目標値	評価判定	データの根拠
			2012(H24)年度	2016(H28)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度			
高齢者の健康	19	自殺者の減少(人口10万人当たり)	92人(19.5) (H22年)		79人(16.6) (H26年)	75人(15.9) (R4年)	11.6以下	B	人口動態統計
	20	ストレスを解消できる人の割合の増加	68.1%		75.8%	86.0% (※1)	75%	E	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)こころの健康についての 大分市民意識調査(参考値)
	21	ストレスや悩みを相談したいと思ったとき相談できる人の割合の増加	70.3%		71.5%	97.2%	77%	A	
	22	気軽に用事を頼める人が近所にいる人の割合の増加	54.1%		50.4%	89.7% (※1)	60%	E	
次世代の健康	23	朝食を必ず食べるこどもの割合の増加(小学5年生)	86.8% (H23年度)		79.0%	82.6%	増加傾向へ	C	(H23)大分市立学校食生活等実態調査 (H28-R5)大分県学力定着状況調査
	24	1日30分以上の運動を週4日以上しているこどもの割合の増加(小学5年生)	男子	72.7% (H19年度)	87.4%	59.1% (※1 男女計)	増加傾向へ	E	(H19)大分市立学校食生活等実態調査 (H28-R5)大分県学力定着状況調査(R1~男女計で算出)(参考値)
			女子	51% (H19年度)				78.2%	
	25	全出生数中の低出生体重児の割合	8.3% (H23年)		9.0% (H27年)	7.8% (R4年)	減少傾向へ	B	人口動態統計
26	肥満傾向にあるこどもの割合の減少(小学5年生)	肥満度20~39.9%	8.4% (H23年度)	7.9%	11.0%	減少傾向へ	D	大分市立学校すこやか検診	
		肥満度40%以上	2.5% (H23年度)				2.8%		3.8%
高齢者の健康	27	介護保険サービス利用者割合の維持	17.9% (H23年度)		17.7%	16.5%	現状維持	B	介護保険事業状況報告
	28	認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上	1.0% (H23年度)		0.9%	(※2)	10%	E	大分市長寿スマイルチェック
	29	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している人の割合の増加	19.8%		36.8%	43.4% (R4年度)	80%	B	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R4)県民健康づくり実態調査
	30	低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者割合の維持	15.8% (H23年度)		17.0%	18.1% (R4年度)	現状維持	D	特定健康診査(大分市国保分)
	31	足腰に痛みのある高齢者の割合の減少	男性	55.5%	51.9%	51.9%	50%	B	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
			女性	57.6%				60.2%	
32	地区の行事(祭りや清掃活動など)や公民館活動に参加する機会のある高齢者の割合	男性	52.6%	(※2)	(※2)	増加傾向へ	E	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査	
		女性	53.9%	(※2)	(※2)		E		

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

	No.	目標項目	策定時		中間時	現状値	目標値	評価判定	データの根拠
			2012(H24)年度	2016(H28)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度			
	33	自分と地域の人たちとのつながりが強い方だと思う人の割合の増加	21.5%		24.5%	19.9%	45%	D	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	34	健康づくりを目的とした活動に主体的にかかわっている人の割合の増加	12.1%		(※2)	15.9%	25%	B	

5 食生活、運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

	No.	目標項目	策定時		中間時	現状値	目標値	評価判定	データの根拠
			2012(H24)年度	2016(H28)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度			
栄養・食生活	35	20~60歳代男性の肥満者の割合	30.8%		26.8%	29.9%	28%	C	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	36	40~60歳代女性の肥満者の割合	17.9%		22.2%	16.2%	17%	A	
	37	20歳代女性のやせの人の割合	17.7%		10.5%	27.0%	17%	D	
	38	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合の増加	47.4%		53.2%	34.4%	60%	D	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	39	食塩摂取量の減少	9.8g		9.7g	(※2)	8g	E	
	40	野菜の入った料理を1日平均5皿以上食べる人の割合の増加	6.5%		3.4%	2.6%	15%以上	D	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	41	果物をほとんど食べない人の割合の減少	29.1%		33.3%	30.9%	15%以下	D	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	42	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	朝食+夕食=週平均9.4回 (H23年度)		9.1回	9.1回	朝食+夕食=週平均10回以上	C	(H23・28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	43	食育推進や生活習慣病予防に取組む飲食店・外食産業や事業所(社員食堂・学生食堂等)の登録店数の増加	(参考値)1.4% (H23年度)		6.0%	9.3%	10%	B	(H23)大分県健康応援登録店舗 (H28-R5)からだが喜ぶ食育応援登録店舗割合

	No.	目標項目	策定時		中間時	現状値	目標値	評価判定	データの根拠		
			2012(H24)年度	2016(H28)年度	2023(R5)年度	2024(R6)年度					
身体活動・運動	44	日常生活における歩数の増加(20歳～64歳)	男性	6,217歩	7,109歩	5,873歩	8,000歩	D	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査		
			女性	5,463歩	5,999歩	5,111歩	7,000歩	D			
	45	日常生活における歩数の増加(65歳以上)	男性	5,738歩	5,132歩	4,149歩	7,000歩	D			
			女性	5,004歩	4,772歩	3,902歩	6,500歩	D			
	46	運動習慣者の割合の増加(20歳～64歳)	男性	40.1%	39.5%	37.1%	50%	D			
			女性	32.7%	29.1%	29.5%	42%	D			
			総数	35.4%	33.5%	33.0%	45%	D			
	47	運動習慣者の割合の増加(65歳以上)	男性	53.9%	54.4%	45.7%	62%	D			
			女性	58.5%	42.7%	50.2%	67%	D			
			総数	55.9%	48.6%	48.0%	65%	D			
	休養	48	睡眠による休養を十分にとれている人の割合の増加		60.3%	81.6%	76.9%	66%		A	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	飲酒	49	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人(1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の人)の割合の低減	男性	26.9%	18.0%	28.7%	22.9%		D	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
女性				38.8%	33.9%	39.7%	33.0%	C			
50		20歳未満の飲酒をなくす(15～19歳)	男性	0.0%	(※2)	0.0%	0%	A	(H24)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査		
			女性	8.3%	(※2)	2.3%	0%	B			
51		妊娠中の飲酒をなくす		8.5% (H23年度)	1.3% (※1)	0.3% (※1)	0%	E	(H23)子育てに関するアンケート調査 (H28)乳幼児健康診査問診項目(参考値) (R5)健やか親子21アンケート(乳児)(参考値)		
52	20歳以上の喫煙率の減少		15.3%	15.8%	15.8%	12%	C	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査			
喫煙・COPD	53	20歳未満の喫煙をなくす(15～19歳)	男性	0.0%	(※2)	0.0%	0%	A	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査		
			女性	3.3%	(※2)	2.3%	0%	B			
	54	妊娠中の喫煙をなくす		5% (H23年度)	2.6% (※1)	1.2% (※1)	0%	E	(H23)子育てに関するアンケート調査 (H28)乳幼児健康診査問診項目(参考値) (R5)健やか親子21アンケート(乳児)(参考値)		
	55	職場や家庭で分煙を実行する人の増加	職場	20.9%	17.0%	22.9%	100%	B	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査		
			家庭	20.0%	26.1%	22.4%	100%	B			
			職場家庭両方	27.7%	35.6%	41.1%	100%	B			
	56	受動喫煙の機会を有する人の割合の低下	行政機関	5.8%	3.4%	3.9%	0%	B	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査		
			医療機関	2.5%	(※2)	1.9%	0%	B			
			飲食店	25.2%	62.8%	37.6%	5.0%	D			
	57	COPDの認知度の向上		47.2%	53.0%	48.6%	80%	C			
歯・口腔の健康	58	歯や口の中の悩みについて悩みや症状のない人の割合の増加		28.7%	34.4%	37.7%	35%	A			
	59	80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加		49.2%	46.2%	42.6% (R4年度)(※1)	50%	E			
	60	60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加		53.5%	48.7%	80.7%	70%	A	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査		
	61	40歳で喪失歯のない人の割合の増加		66.8%	79.0%	83.2%	75%	A			
	62	20歳代における歯肉に炎症所見を有する人の割合の減少		11.6%	7.3%	13.1%	11.0%	D	(R4)大分市介護予防・日常生活圏域二一調査(参考値)		
	63	40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少		17.6%	24.4%	21.7%	17.0%	D			
	64	60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少		37.6%	33.9%	41.5%	37.0%	D			
	65	3歳児のむし歯保有率の減少		26.4% (H23年度)	19.6%	8.5%	10%以下	A	大分市3歳児歯科健康診査		
	66	12歳児の平均むし歯保有数の減少		1.9本 (H23年度)	1.3本	0.8本	0.7本	B	大分市児童生徒定期健康診断調査		
67	定期的(1年以内)に歯科健診を受ける人の割合の増加(20歳以上)		37.1%	36.6%	45.8%	65%	B	(H24・28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査			

### 第3期大分市食育推進計画 目標項目評価一覧

- A:目標達成 目標値以上、R6年度を超える見込みのあるもの
  - B:目標値に近づいた(改善) ベースライン値から現状値までの数値の変化割合(増減率)が、指標の方向に対して+5%超 R6年度の見込み数値が目標の90%以上となるもの
  - C:変化なし 増減率が指標の方向に対して±5%以内 R6年度の見込み数値が目標の90%未満となるもの
  - D:目標から離れた(悪化) 増減率が指標の方向に対して-5%超
  - E:評価困難 増減率の比較ができない等評価が困難
- ※1 類似の調査を参考値としている項目

目標	テーマ	目標項目	策定時 2016(H28) 年度	現状値 2023(R5) 年度	目標値 2024(R6) 年度	評価	データの根拠
全	全	食育に関心を持っている人の割合の増加	72.0%	66.4%	90%以上	D	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
健康な体をつくる	健康的な食生活の実践	食生活改善のために何か取組を実践している人の割合の増加	90.7%	89.5%	100%	C	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べる人の割合の増加	53.2%	34.4%	60%以上	D	(H28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		朝食を毎日食べる小学生の割合の増加	84.8%	80.7%	100%	C	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
		朝食を毎日食べる中学生の割合の増加	85.3%	78.2%	100%	D	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
		朝食を欠食する3歳児の割合の減少	2.3%	1.3%	0%	B	大分市3歳児健康診査
		朝食を欠食する20~30歳代の割合の減少	27.1%	24.3%	15%以下	B	(H28)大分市民生活習慣実態調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		食生活改善推進員養成講座修了者数の増加	489人	607人	675人	B	実績(累計)
	歯の健康の保持増進	3歳児健康診査でのむし歯保有者率の低下	19.6%	8.5%	10%以下	A	大分市3歳児健康診査
		12歳児のむし歯保有数(1人当たり)の減少	1.3本	0.8本	0.7本以下	B	大分市児童生徒定期健康診断調査
		80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合の増加	46.2%	42.6% (R4年度) (※1)	50%以上	E	(H28)大分市民生活習慣実態調査 (R4)大分市介護予防・日常生活圏域二一 調査(参考値)
安全に食べる	食中毒予防	食中毒予防に関する知識を持っている人の割合の増加	47.4%	74.0%	70%以上	A	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		食中毒予防を実践している人の割合の増加	34.8%	55.8%	50%以上	A	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		市民に向けた食品衛生に関する講習会の参加人数の増加	1,406人	1,175人	3,000人	C	実績(累計)
	食品表示の理解	食品表示に関する講習会参加人数	-	3,391人	5,000人	C	実績(累計)
食と環境に関する知識を養い、環境に配慮する	地産地消の促進	農林漁業を体験したい人の割合の増加	39.6%	12.9%	45%以上	D	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		地元産の農産物等を意識して購入する人の割合の増加	32.3%	31.9%	45%以上	C	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	食品ロスの削減	1人1日当たりの燃やせるごみの排出量の削減	472g	482g	450g	C	大分市「ごみ減量・リサイクル」及び「家庭ごみ有料化制度」に関する市民意識調査報告書
食文化を大切に、食事を楽しむ	食文化への関心	食文化や伝統料理に関心のある人の割合の増加	69.6%	64.5%	75%以上	D	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
		家族と一緒に食事を食べる事が週に1回もない人の割合の減少	3.3%	2.7%	0%	B	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査
	共食の推進	地域等で共食したいと思う人が共食する割合の増加	49.6%	43.1%	55%以上	D	(H28)大分市民の「食」に関する意識調査 (R5)「健康」と「食」に関する実態調査